

令和 8 年 1 0 月 2 1 日

令和 8 年千葉市教育委員会会議第 1 0 回定例会

[議案書]

千葉市教育委員会

千葉市教育委員会会議第10回定例会議事日程

令和8年10月21日（水）
午後2時00分開会

1 開 会

2 会議録署名委員の指名

3 会期の決定

4 会議録の承認

5 議事日程の決定

6 報告事項

(1) 令和8年第3回千葉市議会定例会について …… 1

[総務課]

(2) 令和9年度（8年度実施）千葉県・千葉市公立学校教員採用
候補者選考の結果について …… 3

[教育職員課]

(3) 第69回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品
総合展覧会【科学部門】について …… 5

[教育指導課]

(4) 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について …… 7

[教育指導課・教育センター]

(5) 千葉市科学フェスタ2026の実施について …… 29

[生涯学習振興課]

7 議決事項

議案第44号 令和8年度末及び令和9年度千葉市立学校教職員
人事異動方針について …… 31

[教育職員課]

8 臨時代理報告事項

報告第1号 千葉市立学校授業料等徴収条例の一部改正について
…… 35

[教育改革推進課]

報告第 2 号	千葉市立学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正 について	…………… 3 7
		[教育改革推進課]

令和８年第３回千葉市議会定例会について

教育総務部総務課

１ 会 期 ９月７日～１０月５日

９月１０日	議案質疑
９月１１日	教育未来委員会
９月１５日、１６日	代表質疑
９月１７日	常任委員長報告、討論、採決
９月２４日	決算審査特別委員会分科会
９月２８日～１０月２日	一般質問
１０月５日	決算審査特別委員長報告、討論、採決

２ 提出議案等の審議状況

- （１）令和８年度千葉市一般会計補正予算（第３号）【令和８年教委議案第４１号】
- （２）工事請負契約について（（仮称）千葉市千城台公民館・若葉図書館複合施設新築工事）【令和８年教委議案第４２号】
- （３）決算の認定について（令和７年度千葉市一般会計歳入歳出決算）
- （４）決算の認定について（令和７年度千葉市学校給食事業特別会計歳入歳出決算）
- （５）千葉市教育委員会委員の任命について
- （６）令和８年度千葉市一般会計補正予算（第４号）【災害復旧事業】
- （７）令和８年度千葉市一般会計補正予算（第５号）【被災者支援】
- （８）千葉市立学校授業料等徴収条例の一部改正について

※（１）及び（２）については、教育未来委員会の審査を経て、９月１７日の本会議において可決された。

※（３）及び（４）については、決算審査特別委員会分科会の審査を経て、１０月５日の本会議において認定された。

※（５）については、９月１７日に追加議案として上程され、同日の本会議において、高塚真希氏を教育委員会委員に任命することについて同意された。

※（６）については、９月１７日に追加議案として上程され、令和８年８月千葉豪雨に伴う災害復旧事業を速やかに実施するため、委員会付託は省略し、同日の本会議において可決された。

※（７）及び（８）については、１０月５日に追加議案として上程され、令和８年８月千葉豪雨及び台風第２５号に伴う被災者支援を速やかに実施するため、委員会付託は省略し、同日の本会議において可決された。

3 議案質疑・代表質疑・一般質問

(1) 議案質疑

議案質疑を行った1人が教育委員会に関する質疑を行った。

(2) 代表質疑

代表質疑を行った4会派全てが教育委員会に関する質疑を行った。

- ※質疑項目
- ・台風接近時等における市立学校の臨時休業判断基準について
 - ・学校給食について
 - ・教育委員会における千葉開府900年記念事業の取組みについて
 - ・不登校児童生徒への支援について
 - ・放課後子ども対策について
 - ・社会的孤立対策について
 - ・院内学級について
 - ・学校給食無償化について
 - ・避難所となる学校体育館へのエアコン設置について
 - ・担任未配置について
 - ・公民館のコミュニティセンター化について

(3) 一般質問

一般質問を行った35人のうち14人が教育委員会に関する質問を行った。

- ※質問項目
- ・土気公民館・土気いきいきセンターの建て替えについて
 - ・市立小中学校での紫外線・熱中症対策について
 - ・教育環境の充実について
 - ・検見川・花園公民館のエレベーター設置について
 - ・学校における性に関する教育について
 - ・日本語指導が必要な外国にルーツを持つ児童生徒への対応について
 - ・障がい者雇用の推進について
 - ・地域ボランティアの評価について
 - ・集客施設について（千葉市科学館）
 - ・避難所運営、防災訓練について（公民館、学校体育館）
 - ・公立学校の校外学習と部活動の移動について
 - ・公立学校の災害対応について
 - ・学校施設の整備、改善について
 - ・市立学校における航空分野の学びの充実について
 - ・学習に困難を抱える児童生徒の支援について
 - ・農福連携の推進について（特別支援学校との連携）
 - ・女性用トイレの行列問題について（市立学校）
 - ・加曽利貝塚の観光機能について

報告事項（２）

令和9年度(8年度実施)千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考の結果について

教育総務部教育職員課

校種・教科・科目			募集人員	志願者数	1次選考合格者数	2次選考合格者数
小 学 校			約650	1,104	972	764
中学校	技 術		約780	18	14	11
中・高共通	国 語			286	213	130
	社 会			516	257	98
	数 学			276	211	132
	理 科			167	131	108
	音 楽			113	48	28
	美 術			35	21	16
	保健体育			642	180	94
	家 庭			70	42	29
	英 語			210	157	134
小 計			780	2,333	1,274	780
高等学校専門教科	農 業	食品製造	若干名	0	0	0
		園芸		3	2	2
		土木		2	2	1
		畜産		1	1	1
	工 業	電気		3	2	1
		機械		1	0	0
		工業化学		0	0	0
		建設		2	2	1
	商 業			26	20	11
	書 道			26	16	7
	福 祉			5	4	1
	情 報			30	19	7
	水 産			3	1	0
	看 護			3	2	1
	家 庭			0	0	0
	美 術			0	0	0
	工 芸			0	0	0
	英 語			3	3	3
小計			35人程度	108	74	36
特別支援教育			約170	260	228	174
養護教諭			約60	414	141	61
栄養教諭			3人程度	44	11	3
総 合 計			約1,700	4,263	2,700	1,818

	今年度倍率	昨年度倍率
小学校	1.7	1.5
中・高共通	3.0	3.1
高等学校専門教科	3.1	3.2
特別支援教育	1.5	1.8
養護教諭	6.4	7.7
栄養教諭	14.7	13.7
総合計	2.5	2.5

報告事項（3）

第69回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について 学校教育部教育指導課

1 期日 令和8年9月11日（金）～13日（日）

2 会場 千葉市科学館

3 出品点数

	小学校		中学校・中等教育学校		合 計
	科学論文	科学工夫	科学論文	科学工夫	
出品点数	425	173	213	76	887
推奨点数	86	35	60	12	193
県展出品点数	27	35	15	12	89

4 会期中（3日間）の入場者数 令和8年度

※【参考】R7 出品数 898

	9/11(金)	9/12(土)	9/13 (日)	合計
入場者	242人	2,111人	2,096人	4,449人

【参考】令和7年度

	9/19(金)	9/20(土)	9/21 (日)	合計
入場者	193人	1,900人	2,404人	4,497人

【参考】令和6年度

	9/7(土)	9/8(日)	9/9 (月)	合計
入場者	2,325人	1,948人	353人	4,626人

5 展示

7階 企画展示室：小学1～6年生の工夫作品、1・2年生の科学論文を展示（図1）

8階 科学実験室：中学1～3年生の科学論文と工夫作品を展示

講義室：小学3・4年生の科学論文を展示

9階 科学工作室：小学5・6年生の科学論文を展示



図 1 7階企画展示室での様子

令和８年度

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

学校教育部教育指導課・教育センター

本市児童生徒の調査結果について報告いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和８年４月２３日（木）…小学校国語・算数、中学校国語・数学
４月２０日（月）～５月２９日（金）…中学校英語
- (2) 調査対象 小学校第６学年 中学校第３学年
- (3) 調査内容 国語 「知識」「活用」を一体的に問う問題
算数・数学 「知識」「活用」を一体的に問う問題
英語（中学校・CBT）「知識」「活用」を一体的に問う問題
質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

2 教科別結果概要

（令和８年度と悉皆調査実施年度との比較）

（１）全国・千葉県・指定都市の平均正答率（％）と千葉市全体の結果（ここでの全国は公立のみを示す）

【資料１】問題別平均正答率一覧（％）[全国・千葉県・指定都市・千葉市]<令和５年度～令和８年度>

小学校			全国 平均正答率※2	千葉県 平均正答率※1	指定都市 平均正答率※2	千葉市 平均正答率	全国との 比較
	国語	令和8年度	61	61	62	62	1
		令和7年度	67	66	67	66	-1
		令和6年度	68	67	68	68	0
		令和5年度	67	67	68	68	1
	算数	令和8年度	56	56	57	58	2
		令和7年度	58	58	58	59	1
		令和6年度	63	63	64	65	2
		令和5年度	63	62	63	63	0

中学校			全国 平均正答率※2	千葉県 平均正答率※1	指定都市 平均正答率※2	千葉市 平均正答率	全国との 比較
	国語	令和8年度	64	64	64	66	2
		令和7年度	54	54	55	55	1
		令和6年度	58	57	59	58	0
		令和5年度	70	69	70	71	1
	数学	令和8年度	57	57	58	59	2
		令和7年度	48	47	49	49	1
		令和6年度	53	51	53	52	-1
		令和5年度	51	51	52	53	2
	英語	令和8年度	499※3	498※3	－	505※3	6
令和5年度		46	46	47	48	2	
令和元年度		56	56	57	57	1	

※1 千葉県平均正答率は、千葉市を含んだ千葉県の正答率の数値

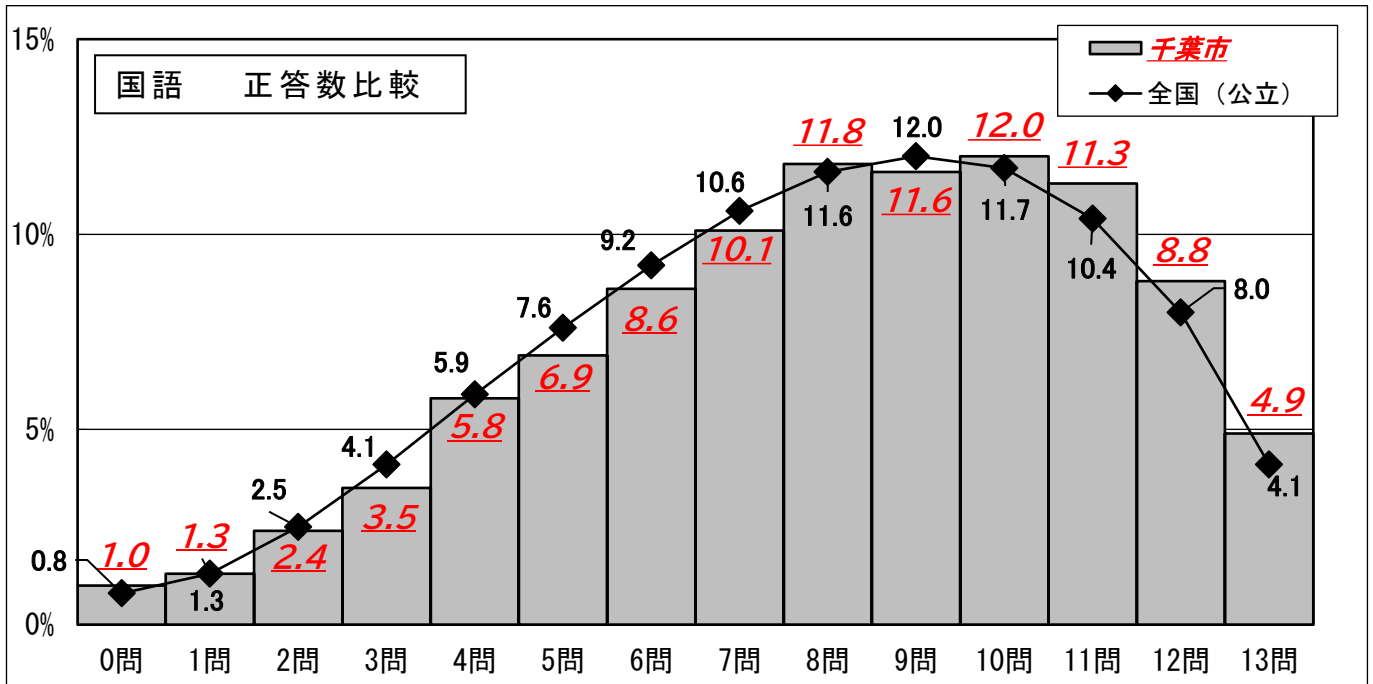
※2 全国及び指定都市の平均正答率は、公立のみの正答率の数値

※3 令和8年度より中学校英語はIRTに基づいて算出される学力スコアの数値

IRT(Item Response Theory): 項目反応理論。問題の特性(難易度や識別力等)と各児童生徒の学力を分けて考える枠組みであり、いくつかの手続きを経ることで、異なる時点、問題セット、児童生徒集団等で実施した場合であっても、その結果を相互に比較できるようになる。

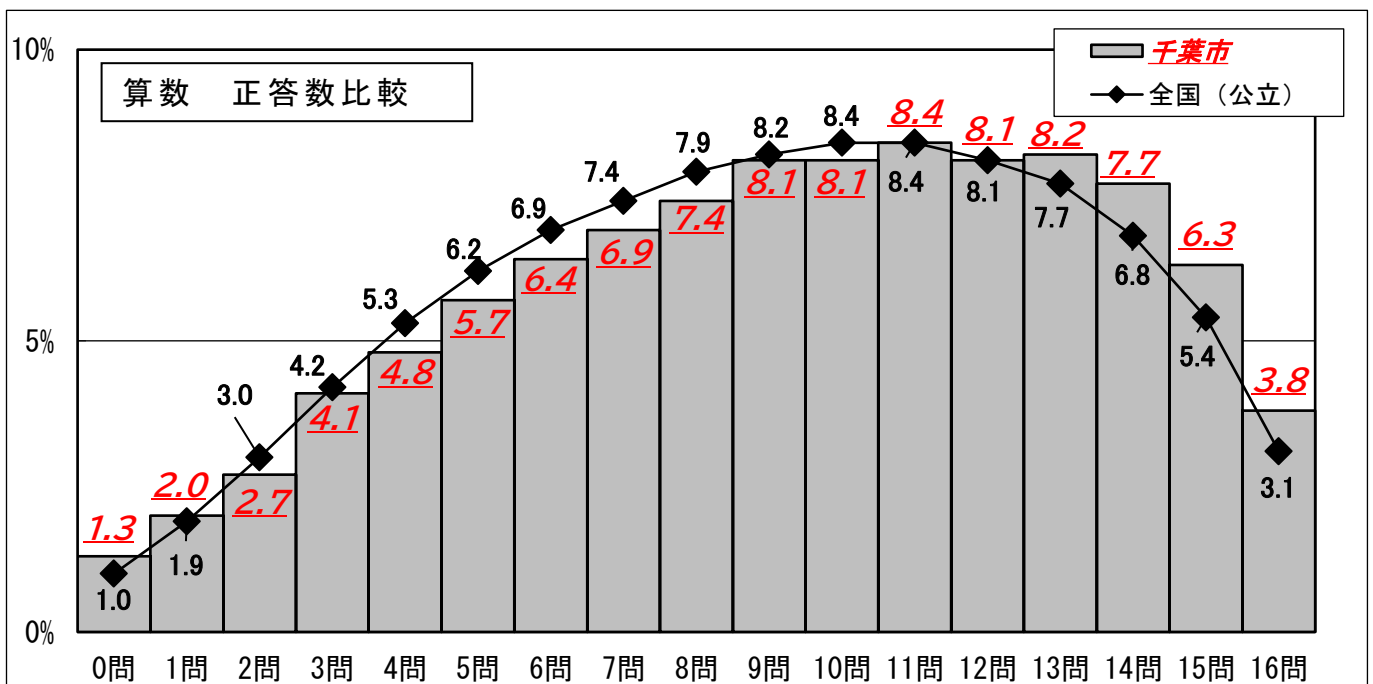
(2) 正答数の分布（全国との比較）

【資料2】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）[全国・千葉市] <令和8年度>
<小学校6年生国語>



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	8.1 問／13 問	8.0	3.0
全国（公立）	7.9 問／13 問	8.0	3.0

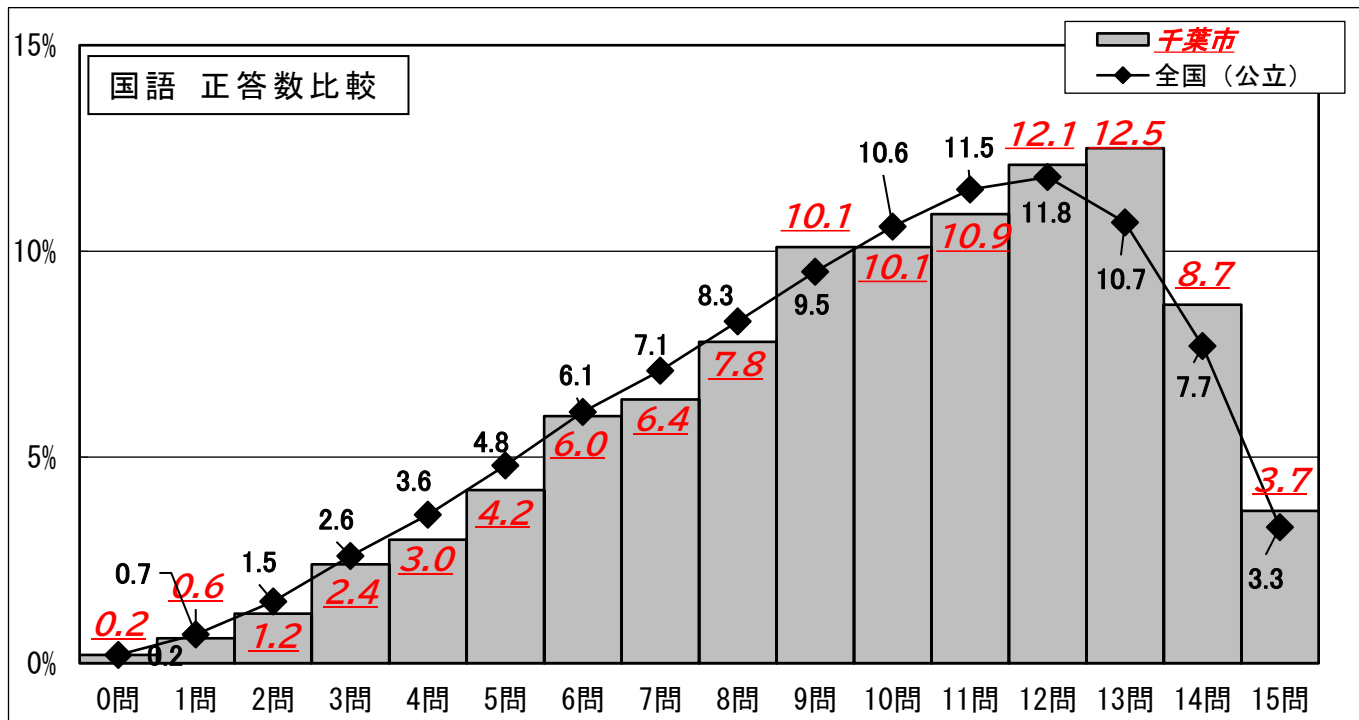
<小学校6年生算数>



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.3 問／16 問	10.0	4.1
全国（公立）	9.0 問／16 問	9.0	4.0

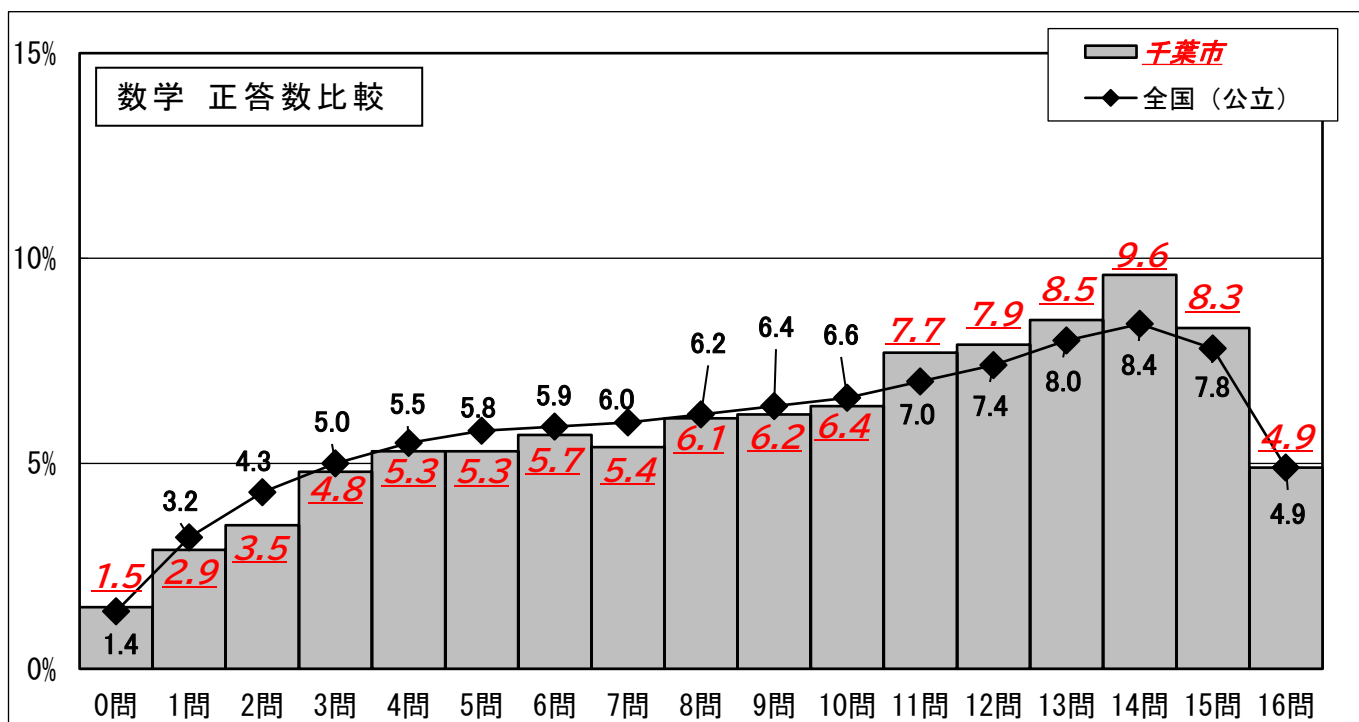
- ・国語では、平均正答数が全国より0.2問高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型の分布になっている。正答数が10～13問の層は全国と比較して割合が高く、2～7問の層の割合は低くなっている。
- ・算数では、平均正答数は全国より0.3問高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型の分布になっている。

< 中・中等教育学校 3 年生国語 >



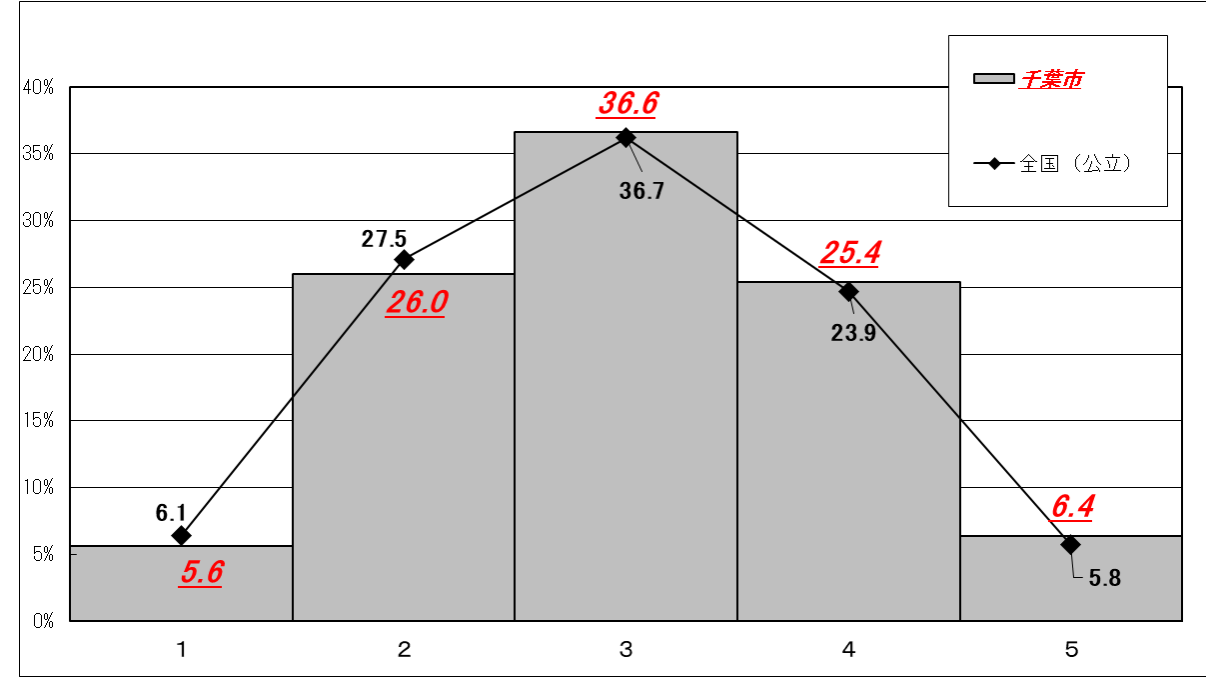
	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.8 問 / 15 問	10.0	3.3
全国 (公立)	9.6 問 / 15 問	10.0	3.3

< 中・中等教育学校 3 年生数学 >



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.4 問 / 16 問	10.0	4.4
全国 (公立)	9.1 問 / 16 問	10.0	4.5

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



IRT バンド集計値			
IRT バンド	生徒数	割合 (%)	
	千葉市	千葉市	全国（公立）
5	406	6.4	5.8
4	1,619	25.4	23.9
3	2,331	36.6	36.7
2	1,655	26.0	27.5
1	354	5.6	6.1

- ・国語では、平均正答数が全国より 0.2 問高い。正答数の分布は、全国と同様に 9 ～ 14 問の正答数の多い生徒の割合が高い、右寄りの山型の分布になっている。
- ・数学では、平均正答数が全国より 0.3 問高い。正答数の分布は、全国と同様にやや右寄りの山型の分布になっている。
- ・英語では、3・4・5 の IRT バンドの割合が全国より高く、1・2 が低い。全国と同様、標準的な正規分布となっている。

全国学力・学習状況調査におけるIRTスコア・IRTバンドについて

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

〔 各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。〕

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

〔 各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。〕

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

【参考】 国立教育政策研究所
説明資料より

【資料 3】全国平均正答率と自校平均正答率の差異比較で顕著な向上が見られた学校の取り組み事例

※国語、算数・数学ともに向上が見られた学校にアンケートを実施

《各学校の取り組み事例から読み取れること》

○自己調整力を高めていこうとする意識

- ・「何ができたか」という見方だけでなく、「どのように取り組んだか」という見方(大森小)
- ・単元の中に、自己調整力向上のため、児童が自分で取り組む学習内容を選択する時間を設定(長作小)
- ・振り返りの工夫により、児童自身が自己の学びを実感できるように(土気小)

○協働的な学びの効果

- ・自分の思いを友達に伝える、伝え合う機会(都賀小)
- ・各教科の様々な場面で少人数で学び合う学習活動を積極的に設定(磯辺第三小)
- ・協働的な学びを通して個々の思考を深める(有吉小)

○学習面での学校としての体制づくり

- ・授業を見合った後の座談会を設定してフィードバック(磯辺小)
- ・習熟度別学習で、理数サポーターや学校運営充実職員を配置しての TT 授業(幸町小)
- ・朝学習等での T2 によるサポート体制(千城台わかば小)

○学校全体としての意思統一

- ・前回の全国学調結果での自校の課題点を踏まえ、スピーチや発表を日常的に取り入れる(蘇我中)
- ・学力向上アクションプランをもとにした生徒の実態共有、定期的な見直し(草野中)

ア 小学校

学校名	取組の内容
本町	・児童が何事も自分事として捉えられるよう、まずは自分の考えをもち、その後共有したり学び合ったりする時間を設けた。 ・週 1 回の「のびのびタイム」で<u>一人一人が計画・実行・振り返りを行い、自己調整力を身に付けた。</u>
都賀	・理科、生活科の研究に取り組み、互いを認め合い、かかわり合う学びを目指して授業研究に取り組んできた。自他を尊重する学びは、考えを広げたり深めたりすることにつながり、学力の向上にもつながっていると考えている。 ・家庭と連携して基礎的な学習の充実に取り組んでいる。 ・朝学習や授業で<u>ペアや小グループの話し合い活動を行い、自分の思いを友達に伝える機会</u>を多く取り入れている。 ・「よくわかる！ 都賀小」を作成し、学校生活の決まりやルール等を保護者、児童に周知して、落ち着いた雰囲気と規律ある学習環境を作っている。
大森	・取り出し指導（もりもりルーム）の活用 週 1 回で、希望する児童を対象に取り出し指導を行っている。取り出し指導を希望する児童は、担任が個別の指導計画を作成する。取り出し指導の時間に行う課題については、指導計画を基に、一人一人に合ったものを行っている。 ・キャリア教育の視点に基づく教育活動の充実 振り返り活動などを通して自分を見つめ直し、そこから自分の目指す姿を設定させ、見通しをもって学習活動を行ったり学校生活を送ったりできるようにしている。<u>「何ができたか」という見方だけでなく、「どのように取り組んだか」という見方も大切にしよう指導</u>を行ったことで、児童自身が自己の成長を実感し、何事にも前向きに取り組める児童が増えた。
長作	①「基礎・基本」の力の向上【計算、漢字に重点を置いて】 ・週 3 回の朝帯「ぐんぐんタイム」で既習の漢字学習と、算数の復習や計算練習を行う。

	・ 1・2年は「漢字の学習ドリル」を用いて新出漢字の練習の仕方を統一して指導する。言葉や読み取りはデジタルドリルを活用する。 ・ 3～6年は「国語ドリル」「漢字練習帳」を用い系統立てた漢字指導・添削を統一して行う。 ・ 1・2年「算数ドリル」 3～6年「計算ドリル」を活用し、朝学習、毎時間の算数学習、単元内に設置する「うめりんタイム」で繰り返し計算する。 ・ 宿題は復習を基本とした内容とし、原則計算・漢字・音読に特化する。 ②「読む」力の向上【読書教育、問題の解法指導に重点を置いて】 ・ 国語・算数の学習の中で「文の意図」を理解する時間を丁寧にとる。文章題の題意や、教材文のねらいに合わせた指導、教材文のどこに意識して読むべきなのかを共通理解するなどの手立てをとる。 ・ 教科書で紹介される「学習の段階に合わせた本」に沿って、担任が選書指導を行う。 ・ 国語の読書単元を生かし、近接学年で交流する「読書郵便」を行う。 ・ 図書室の新刊を各学級で読み味わう「ブックラック学級巡回」を行う。 ③「自己調整」の力の向上【計算、漢字の学習の中で】 ・ 国語、算数の小単元の中盤や終末に1時間程度、<u>「うめりんタイム」自己調整のための時間を設定する</u>（指導の実態をみながら必要な単元において、つまずきやすい学習内容の所を中心に）。児童が<u>自分で考えて取り組みたいものを選択する</u>。<u>得意な児童はより高度な問題や計算に挑戦したり、苦手な児童は基本的な問題を丁寧に組み組んだりできるようにする</u>（各学年、年間10～15時間程度を想定）。定着できていない場合の復習タイムとしての活用もできるものとする。自分の現状を児童が振り返るきっかけとなる。学習が苦手な児童、得意な児童のどちらにも効果的である。
誉田	・ 学力向上アクションプランに基づき、児童の学習状況を把握し、学年で課題を共有しながら授業改善に取り組んだ。 ・ 「個別最適な学び」と「<u>協働的な学び</u>」を意識した授業づくりを進め、自分に合った方法で学習したり、<u>友達と考えを伝え合ったりする場面を設定した</u>。 ・ ICTやヒントカード、学年ごとのキャスター付き棚（難易度別のプリント）を活用し、児童一人ひとりの理解度やつまずきにに応じた学習支援を行った。 ・ 児童の学習状況や学年の実態の影響も考えられるが、1年生からの継続的な授業改善や個に応じた支援により学習に主体的に行動できる児童の姿が多く見られるようになった。
土気	・ 学習内容を振り返るたしかめプリントの活用や、事前にテスト内容を示し、計画的に課題に取り組むなどして復習の機会や期間を設けることで、既習内容の定着を図った。 ・ 漢字や計算など、週1回の自主学習を継続的に行うことで、基礎・基本の定着を目指した。 ・ 毎時間、<u>振り返りの場面（前時までの振り返りや学習後の学び）を工夫し、児童一人一人が学びの成果を実感できるようにした</u>。 ・ 学校支援員や理科教育サポーターを学級に配属し、学習の支援や支援が必要な児童への対応を行った。 ・ ギガタブ等ICTを有効活用することで、児童の学習への意欲を高めた。
高洲第三	1 学年内での教科担任制の実施 学年内で教科によって、担任が交代して授業を実施した。学年で事前に教材研究を行い、抑えるべきポイントを話し合って実施した。 2 自由進度学習の実施

	学年の実態によって、<u>算数の単元によって自由進度学習を実施</u>した。各児童が自分のペースで学習を進められるため、自分から学習に取り組む意欲向上と基礎・基本となる部分や単元のポイントを理解する時間が生まれ、取り組むことができた。 3 学校支援員や理数サポーター、日本語指導担当の活用 学級担任の要望や児童の実態と照らし合わせて学校支援員や理数サポーター、日本語指導担当を計画的に配属し、学習の支援が必要な児童への対応を行った。学級担任に時間的に余裕が生まれ、児童の良いところに気付く時間も増え、称賛する声かけが自然と多くなり、自己有用感の向上につながった。
磯辺 第三	- 多くの児童が毎時間の学習目標を理解した上で学習活動に取り組めるように、学習のめあての共通理解を丁寧に行った。また、学習活動や内容に対する振り返りやまとめを丁寧に行うことで、児童が自身の学びへの関わりを見つめ直す機会を確保した。 - 各教科の様々な学習場面において、<u>少人数で学び合う学習活動</u>を積極的に設けた。その際には、児童に学び合う<u>ねらい</u>を明確に提示した上で活動を行うことで、学習目標が達成できるようにした。 - 教科担任制や交換授業を取り入れ、教職員が教材研究や授業準備を十分に行うことができる体制を整えることで、授業の質の向上が図れるようにした。 - ミニテストの継続的な実施や ICT 機器の活用をしたことで、児童が学習内容を復習する機会を確保した。
泉谷	- 朝学習の時間の充実 学校全体で曜日ごとに計算・漢字等の課題を設定し、ドリルに取り組んだり、ギガタブのドリルパーク学習に取り組むなどして学習内容の定着を図った。 - 個別最適な学びの実践 ワークシートの難易度を調整したり、集団・個別の学習を組み合わせたりすることでそれぞれの児童の学習進度や特性、到達度に合った学習方法を選択できるようにするなど、習熟度を意識した学びを行い、指導方法の個別化に取り組んだ。 <u>ギガタブ等の ICT 活用</u> 学習にギガタブ等を利用することで、子供たちの<u>考えの共有のしやすさを改善</u>したり、<u>学習意欲の高まり</u>を図ったりするなどして、有効活用できるよう積極的に利用した。
有吉	- 学習目標を明確にし、一人一人が見通しをもって学習を進められるようにする。導入の場面では学習計画を児童と一緒に作り、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 - 教材や資料の工夫、提示方法の工夫を図る。身近な素材や児童の経験を活用し、自分事としてとらえられるようにする。 - ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。 - ペアトークや読書活動、話し合い活動など、年間を通して、児童の実態に合った常時活動を取り入れる。 <u>根拠や理由を伝え合い、学び合う協働的な学びを通して個々の考えを深める</u>学習活動を充実させる。 - 学んだことを生かしたり、自己の学びを振り返ったりする場面を設定し、学習のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度を育成する。 - チャレンジタイム（朝学習）でギガタブやプリントやドリルを活用し、「読み・書き・計算」の繰り返し学習を行う。

磯辺	・「自ら学びに向かい 問い続ける子の育成」を研究主題とし、学校の目指す子供像を職員で年に複数回共有。「子供が何をどう学ぶのか」を意識し、各職員の課題を設定し、実践授業を年間42展開行った。どの展開授業でも職員間で座談会として短時間のフィードバックを行った。<u>子供たちの学習に対する必要感・有用感を高める</u>ことができ、主体的に取り組む子の育成につながっている。 ・本校の児童の課題もこまめに共有しており、自分の考えを伝える力や問題解決能力の育成を意識した授業を教師が引き続き実践している。
幸町	・日々の授業の充実を図り「わかる授業」を実践した。 ・算数の授業において、<u>習熟度別学習</u>を行った。さらに、算数が苦手なグループに理数サポーターや学校運営充実職員を配置して、ITで授業を行った。 ・研究を軸に、全校でノートの書き方を統一し、学年や担任がかわっても、学びが継続できるようにした。
千城台わかば	・わかばチャレンジ（朝学習）では、既習の漢字や計算、九九の反復練習等、個別にゴール設定できる内容のものに繰り返し取り組み、基礎・基本の定着を図った。 ・わかばチャレンジ(朝学習)や算数の授業(校内研究教科)において、<u>T2を取り入れ学習内容の理解が不十分な子を中心にサポートできる体制を整えた</u>。 ・算数の学習でT2の体制がとれた場合は、授業内容をできる限り問題を解く時間に当てたことで、児童がそれぞれの実態に応じた量や内容に対し、意欲的に取り組む時間になっていた。

イ 中学校

学校名	取組の内容
蘇我	・前回の全国学力状況調査において、<u>対話や発表といった「アウトプット型」の学習活動に課題</u>が見られたため、<u>スピーチや発表を特別な学習活動にせず、日常的に取り入れる</u>よう心がけた。 ・教師に相談しづらいという前回のアンケート結果を受けて、心理的な安心感や居心地の良さを築けるように、生徒との人間関係を大事にすることを全職員で心がけた。具体的には褒める指導を増やし、生徒が自信と意欲をもって学習に取り組めるように努めた。 ・夏季休業中や定期テスト前に学習相談期間を設け学習内容の定着を図った。 ・教科会議を定期的に行い、学力向上アクションプランを用いながら、課題の克服に努めた。 ・【数学】単元末テストを実施し、一定の点数以下の生徒については、放課後に補習や再テストを実施し、基礎・基本の定着を図った。
千城台西	・ギガタブを使用したドリル学習の時間を昨年度より5分増やし、学習の習慣化を図る。 ・家庭学習による振り返りを習慣化させるために、達成感を味わえるよう、1日1ページノートの活用やギガタブを使用したドリルパークなど、学年の実態に合わせた取組を行う。時間の目安や取り組んだ時間を可視化させ、習慣化を図る。 ・ドリルパークやテストパークの取組を評価につなげる。 ・各教科における基礎基本について定義する。また、<u>学んだことを実生活に生かす取組を明確化</u>する。 ・数学においては、少人数指導を行い、一人一人のつまづきに気付き、課題解決を図る。

星久喜	・漢字テストを月3回を目安に実施。週に1回「今日の言葉」を取り入れ、語彙を増やせるような機会を増やしている。（国語科） ・「なぜ」「どうして」といった発問をすることで、生徒が考える場面を授業の中で多く設定した。授業の中で、自分の考えを記述するような問題設定を行った。定期テストにおいて記述問題を必ず数問出題する。<u>定期テスト後に「なぜ間違えたのか」を生徒が分析する時間を設定した。</u>（数学科） ・毎時間、授業の振り返りをする時間を確保して、生徒の理解度を把握した。教科書の内容を深めるために、ALTと連携し、ALTによるプレゼンテーションを取り入れた。（英語科） ・週2日、朝の15分間にドリルパークによる自主学習を行うことで、個々の課題に合わせた基礎学力の定着を図った。
草野	・「<u>学力向上アクションプラン</u>」を活用。<u>教科会議の時間を活用し、生徒の実態の情報共有やプランの見直しを半期ごとに行った。</u> ・「国語科」1年次から授業の始めに5分間の漢字練習を行い、小テストを週1回行うことで、知識の定着をはかった。 ・「国語科」語彙力を高めるために語彙ノートを作り、調べることを習慣化した。 ・「数学科」授業開始時に5分間程度前時の内容の確認をしてから本時の内容に入るようにした。 ・「数学科」単元や章ごとに小テストを行い、すぐに結果を返すことで苦手の改善がしやすくなった。
天戸	・基礎基本の定着に重点を置き、授業の導入時等に振り返りや復習の時間を設けるなどして、課題が難しい生徒が取り残されないように支援を行った。 ・学習が苦手な生徒に個別支援を行えるよう、学習相談や夏季学習会などを行い、全職員で学習支援にあたった。 ・年間を通して1日1ページ学習を実施し、自分で継続して取り組む学習の機会を設定した。また、2分前着席など、落ち着いて授業に取り組める環境の整備に全校・学年等で力を入れて取り組んだ。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるよう、漢字テストや単元テスト、計算5分テストや証明1問テストなど、小さな「できた」を実感できる機会を定期的に設けた。 ・<u>思考の過程を記述で残すことを重視した指導</u>を行った。課題で誤った答えがでてきた時には、答えを直すのではなく、<u>その過程のどこを直すべきかを追及することを重視</u>した。 ・「どうやるのか」という方法だけでなく「なぜやるのか」についても丁寧に言及し、生徒が学習内容について、納得感をもてるように工夫した。 ・生徒が興味をもてるような内容、課題を定期的に取り入れて授業を行った。
土気南	・他学年と比べて生徒人数が少ない中で、ほぼ一小一中で小学校の頃から4学級を維持することができている（各学級26・27名の在籍）ため、各教科で生徒に対してきめ細かい指導をすることができている。 ・国語においては、昨年度正規の国語の教員ではなく、他教科専門の教員が4クラス中3クラスを受け持っていた状況であるため、何か特別なことや授業改善になるような取り組みはできていない。 ・数学においては、毎時間授業開始時に前時の復習ができるミニプリントを行い、習熟を確認している。 ・数学の授業は<u>毎時間教員が作成したプリントを用いて授業を進め、豊富な問題量をこなして</u>おり、各章のまとめの時間にも基本問題から発展問題まで多くの問題に触れる機会を設定している。

3 質問調査結果概要

【資料4】児童生徒質問調査より〔千葉市・全国〕＜令和8年度＞

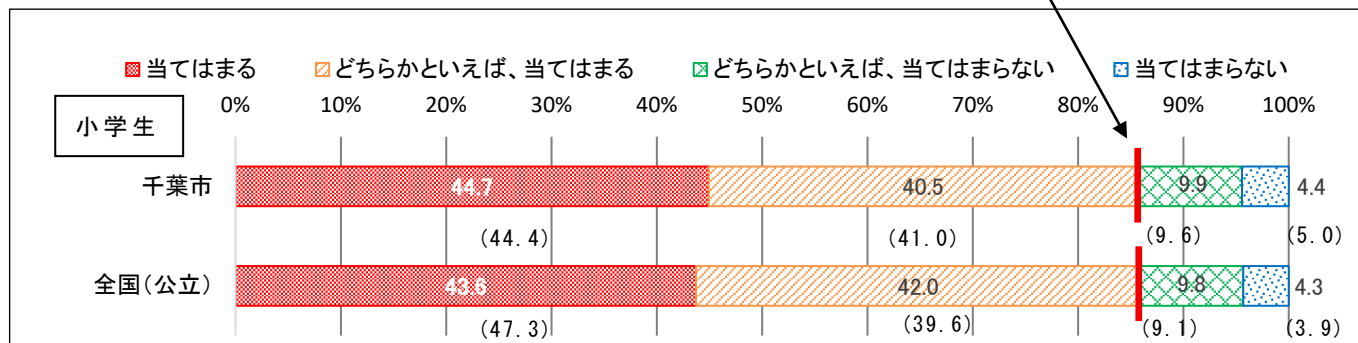
※帯グラフの（ ）の数字は、令和7年度同質問の回答の割合を示している。

※小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

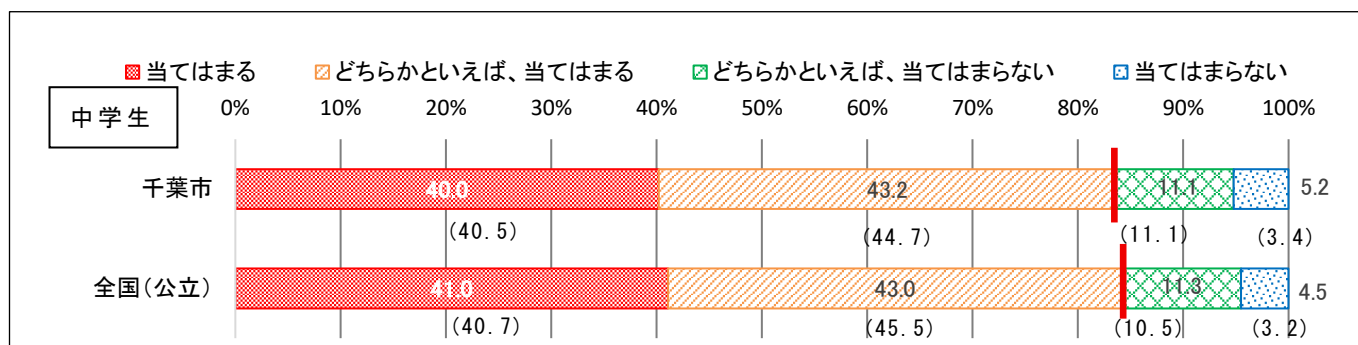
〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕

肯定的回答をまとめた
部分を縦線で表示

1 自分には、よいところがあると思いますか。

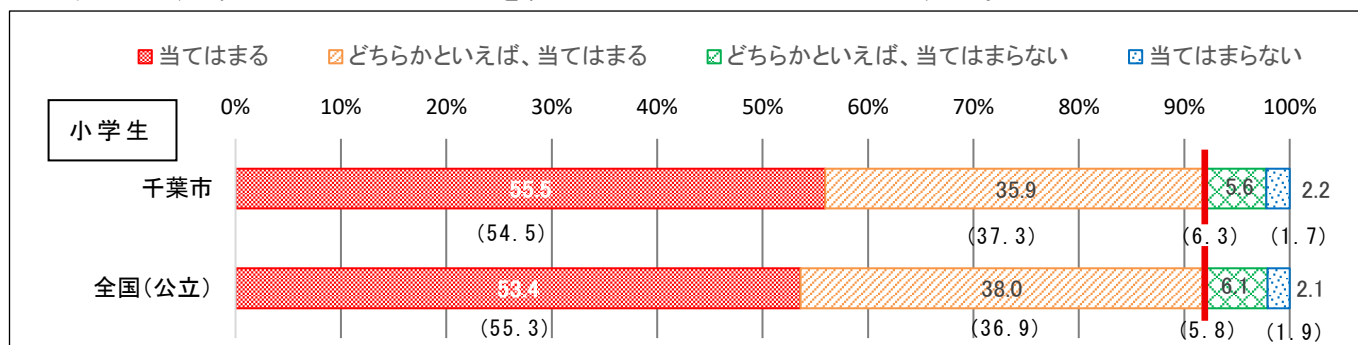


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.2%（全国より0.4ポイント低い）

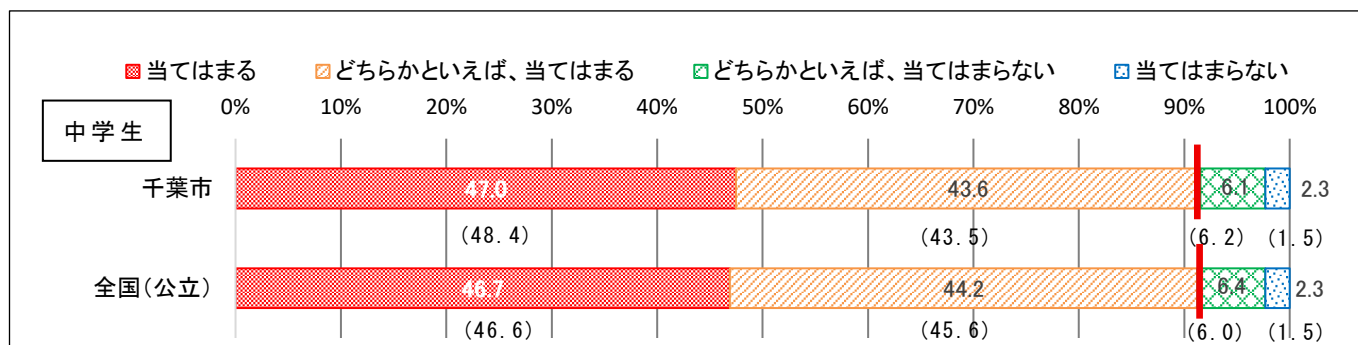


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→83.2%（全国より0.8ポイント低い）

2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

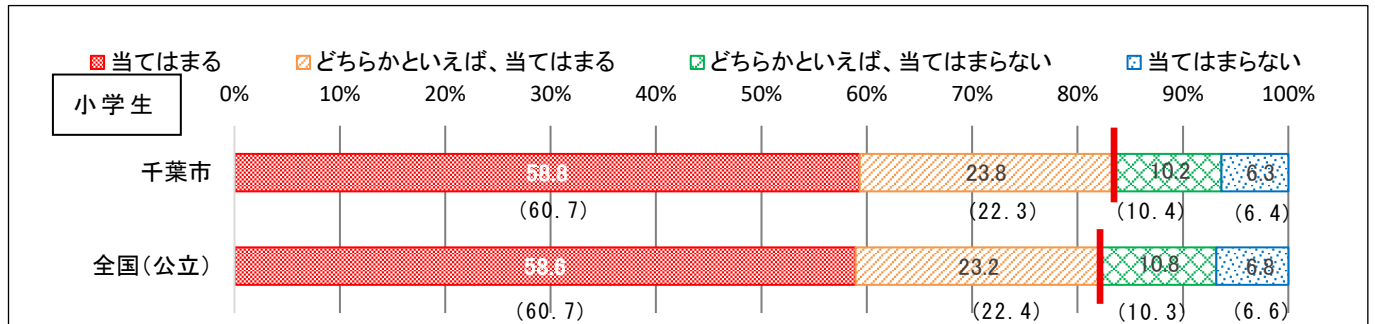


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.4%（全国と同ポイント）

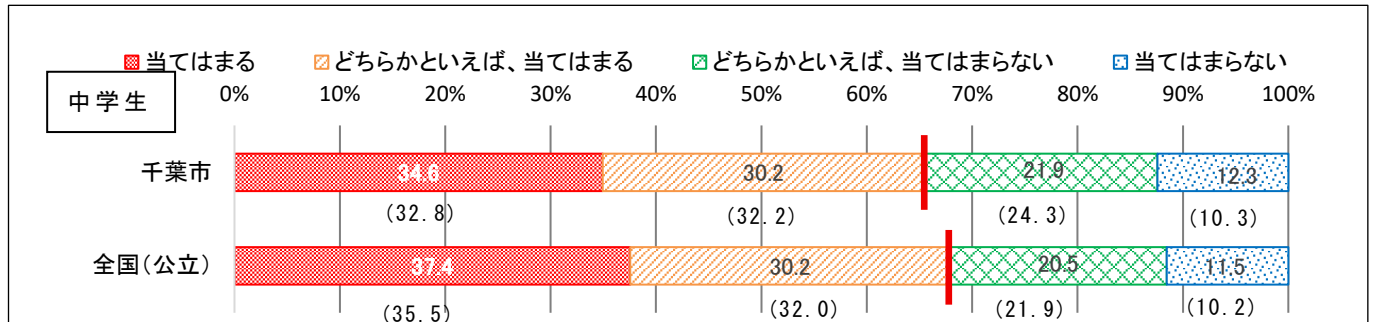


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.6%（全国より0.3ポイント低い）

3 将来の夢や目標を持っていますか。

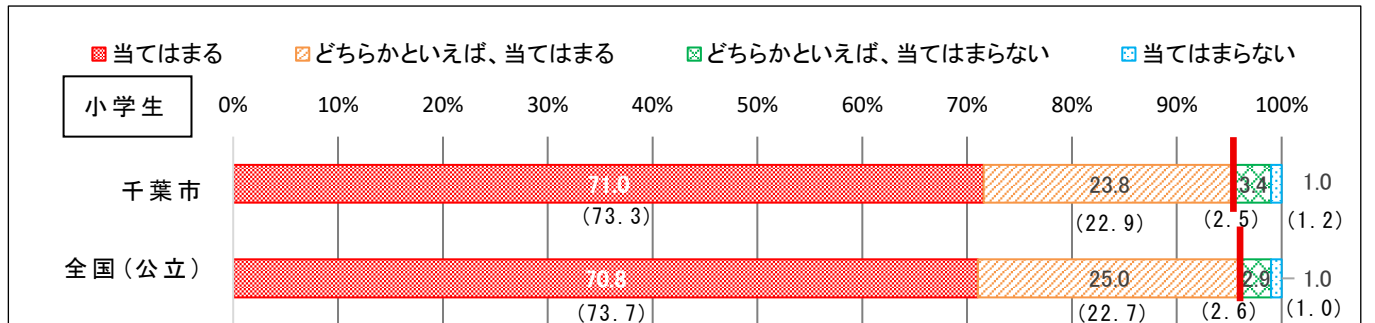


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→82.6%（全国より 0.8 ポイント高い）

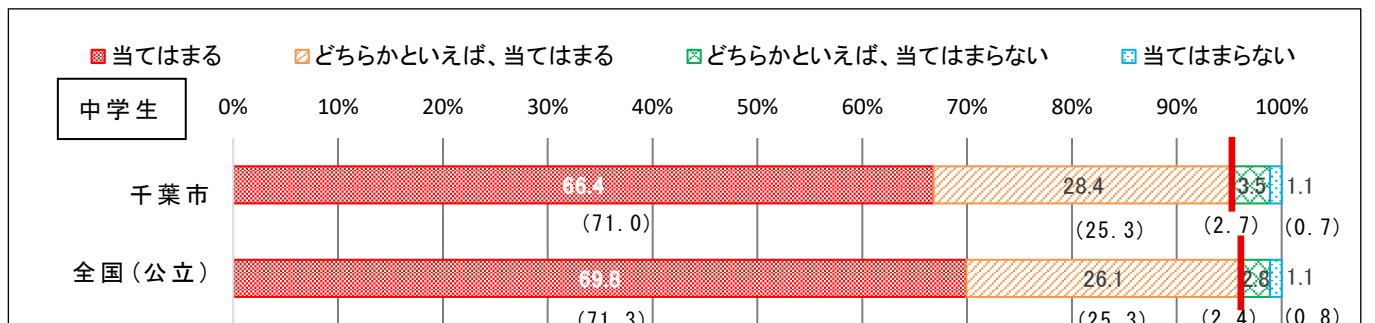


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→64.8%（全国より 2.8 ポイント低い）

4 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.8%（全国より 1.0 ポイント低い）



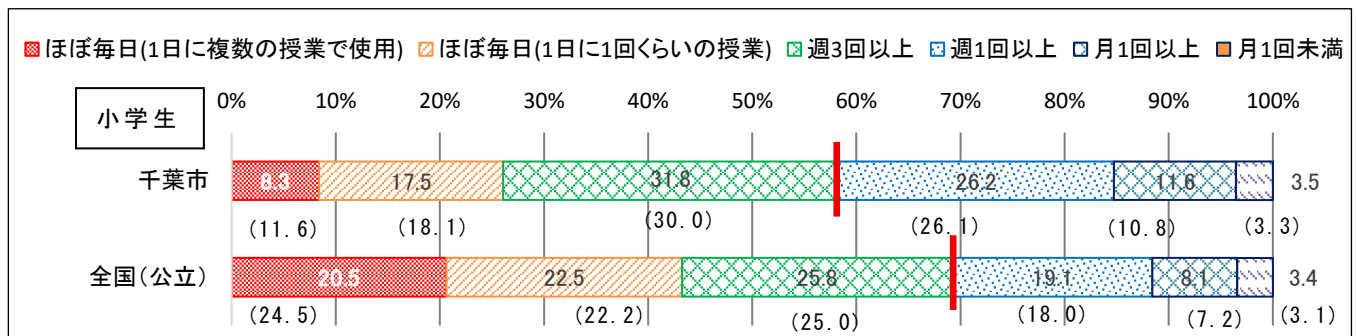
・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.8%（全国より 1.1 ポイント低い）

○項目1「自分にはよいところがある」と思う児童生徒は、全国平均をわずかに下回っているが、昨年度（小…全国比－1.5 ポイント 中…全国比－1.0 ポイント）からは向上が見られ、自己肯定感での改善傾向が伺える。

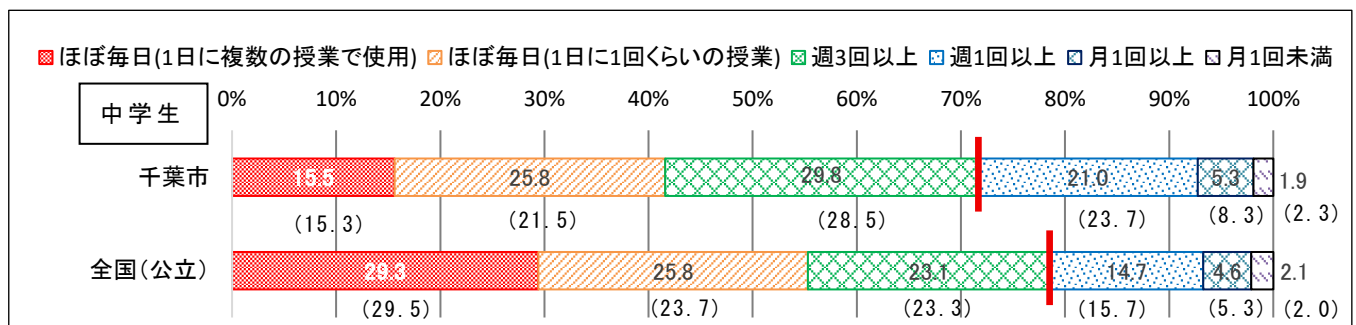
○項目3「将来の夢や目標」を「持っている」と答えた割合では、小学生が昨年度は全国比較で低かったが、今年度は全国比較でプラスとなったのは良い傾向である。

〔ICT機器の活用に関する意識〕

5 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

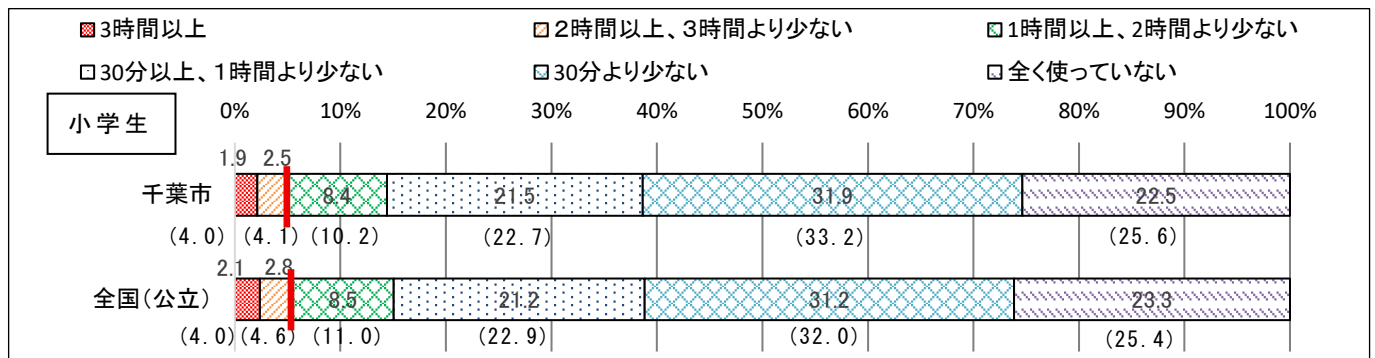


・ ほぼ毎日、週3回以上→57.6% (全国より11.2ポイント低い)

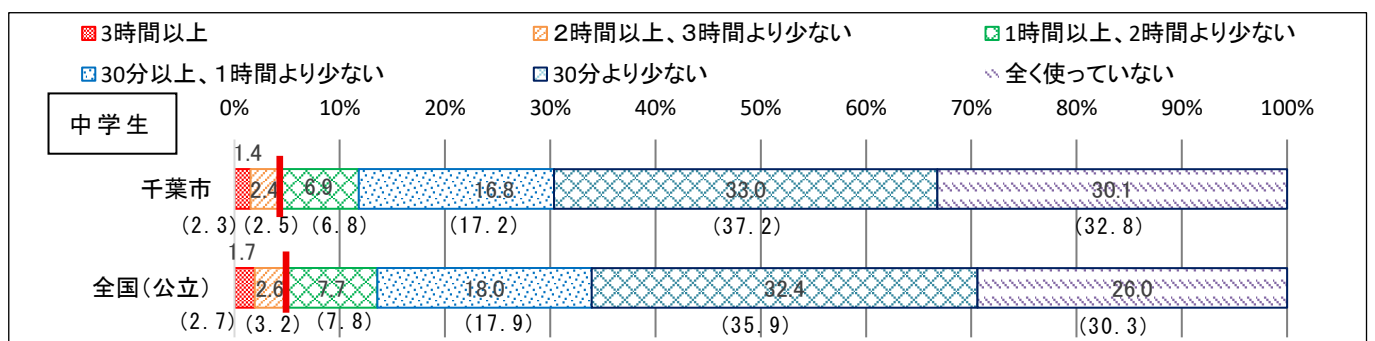


・ ほぼ毎日、週3回以上→71.1% (全国より7.1ポイント低い)

6 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)。



- ・ 3時間以上、2時間以上3時間より少ない⇒4.4% (全国より0.5ポイント低い)
- ・ 1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない⇒29.9% (全国より0.2ポイント高い)
- ・ 30分より少ない、全く使っていない⇒54.4% (全国より0.1ポイント低い)

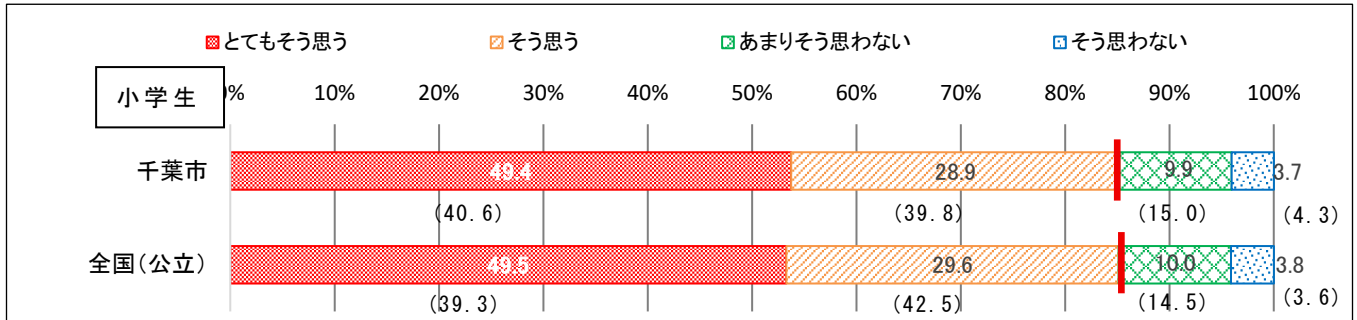


- ・ 3時間以上、2時間以上3時間より少ない⇒3.8% (全国より0.5ポイント低い)
- ・ 1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない⇒23.7% (全国より2ポイント低い)
- ・ 30分より少ない、全く使っていない⇒63.1% (全国より4.7ポイント高い)

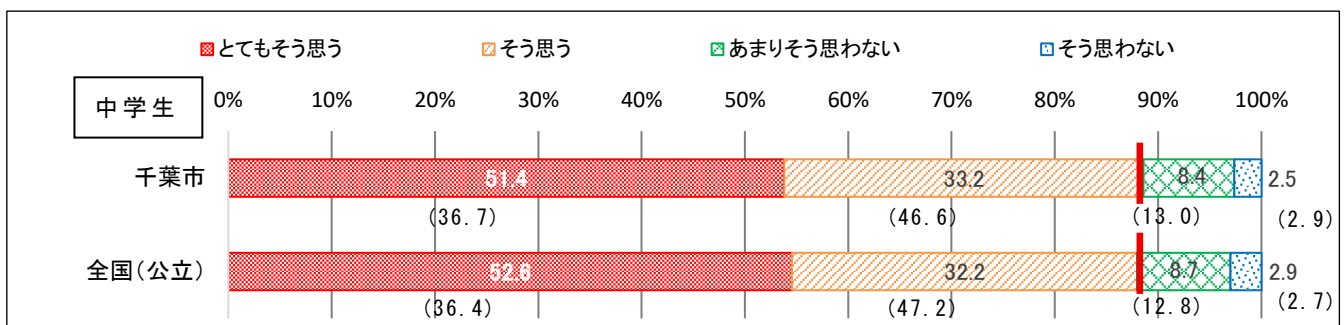
〔ICT 機器を活用する自信に関する意識〕

7 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って以下のことができると思いますか。

(1) 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）

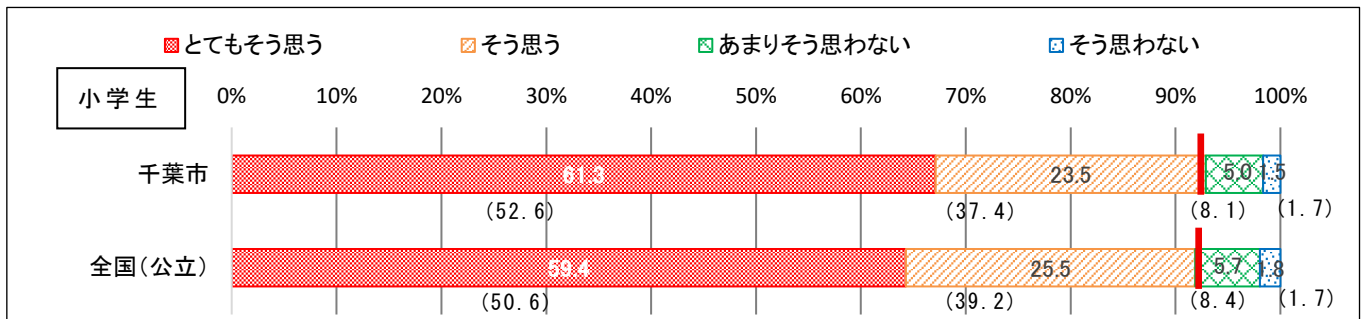


・ とてもそう思う、そう思う→78.3%（全国より0.8ポイント低い）

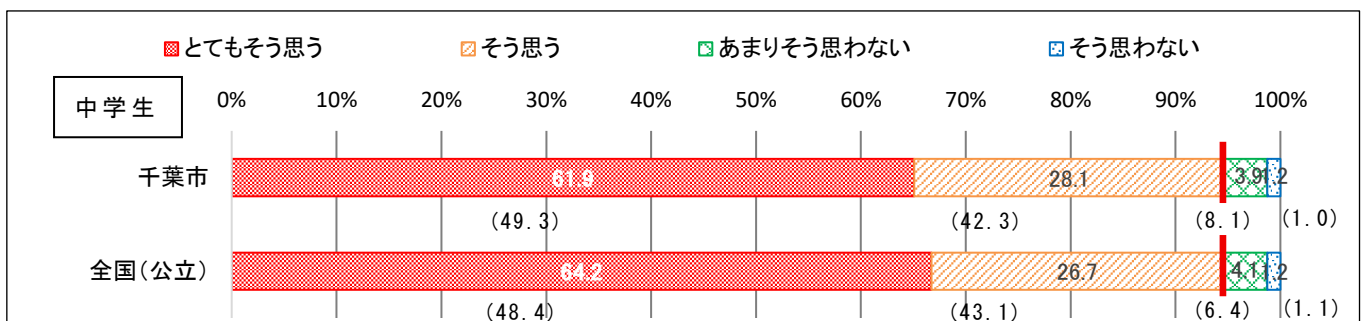


・ とてもそう思う、そう思う→84.6%（全国より0.2ポイント低い）

(2) インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）

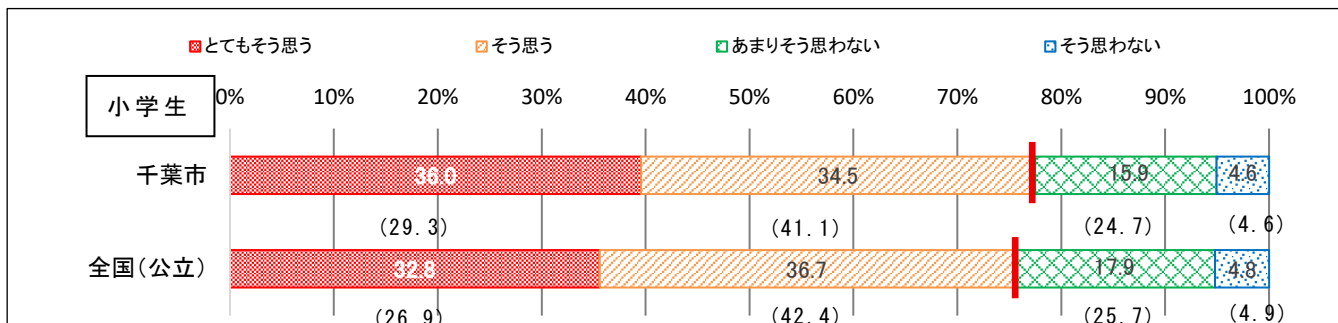


・ とてもそう思う、そう思う→84.8%（全国より0.1ポイント低い）

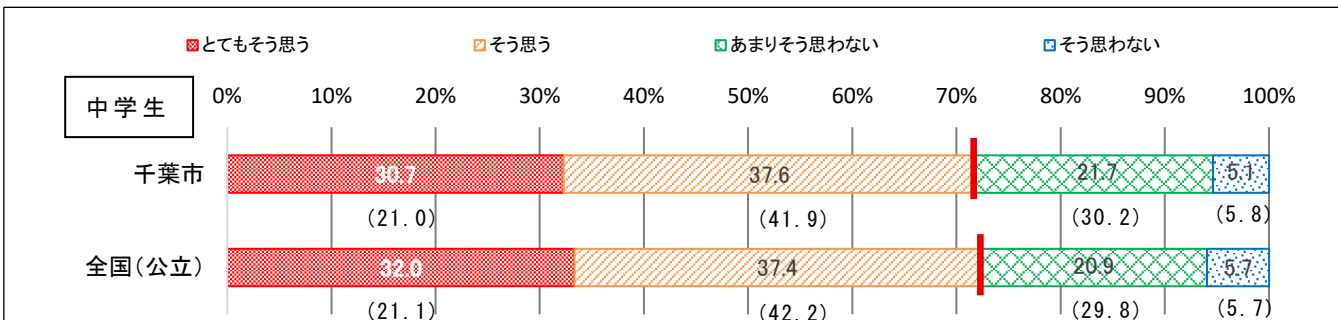


・ とてもそう思う、そう思う→90%（全国より0.9ポイント低い）

(3) 情報を整理する(図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる)

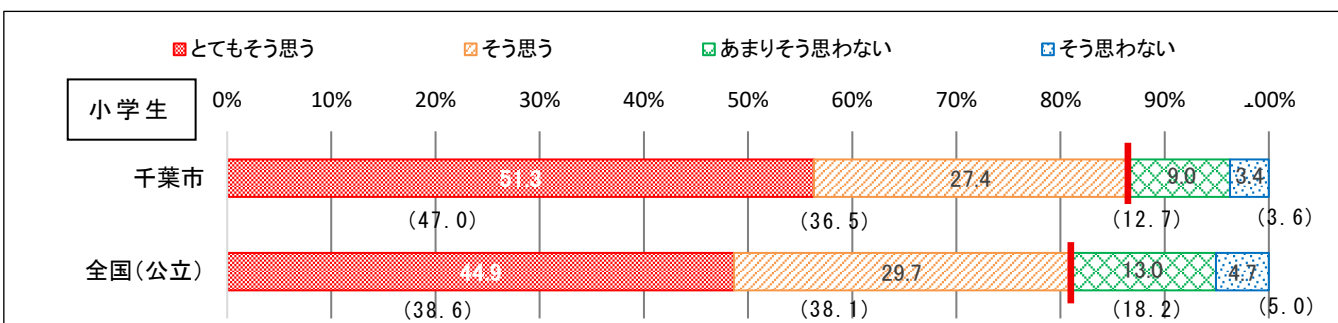


・ とてもそう思う、そう思う→70.5% (全国より 1.0 ポイント高い)

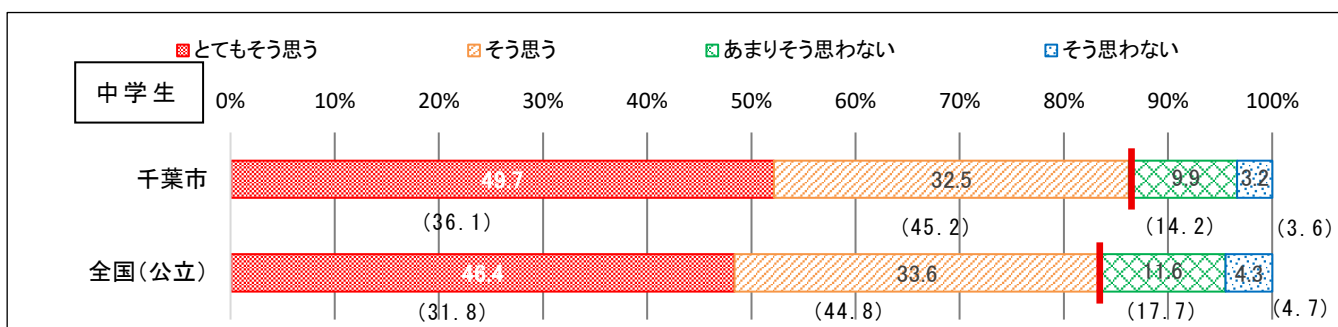


・ とてもそう思う、そう思う→68.3% (全国より 1.1 ポイント低い)

(4) 学校のプレゼンテーション (発表のスライド) を作成する



・ とてもそう思う、そう思う→78.7% (全国より 4.1 ポイント高い)



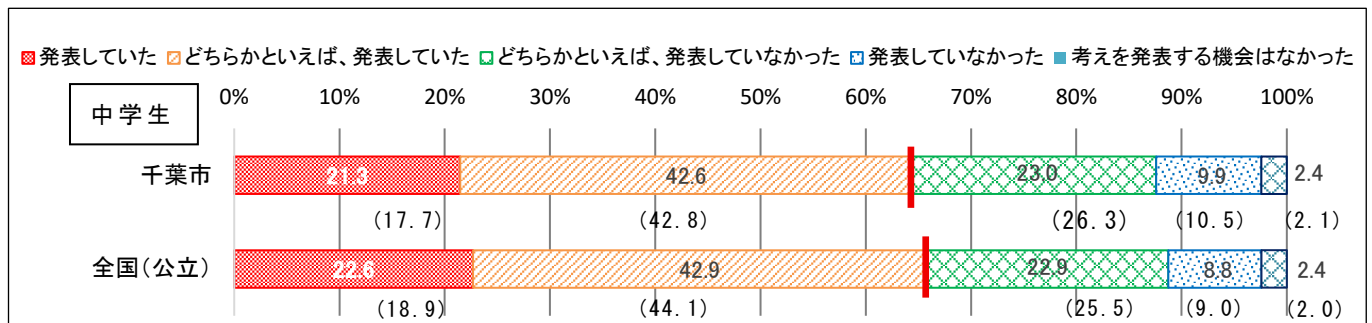
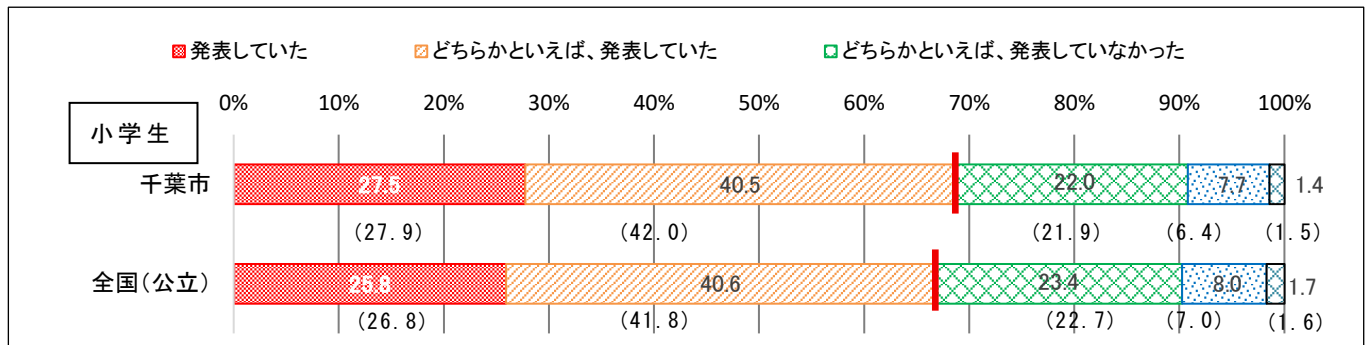
・ とてもそう思う、そう思う→82.2% (全国より 2.2 ポイント高い)

○項目5 「授業で ICT 機器をどの程度使用したか」では、小中ともに全国比は低いものの、昨年度の全国比（小…17 ポイント 中…16.4 ポイント）に比べると改善が見られ、小中共に使用頻度が少しずつ向上していることが見られる。

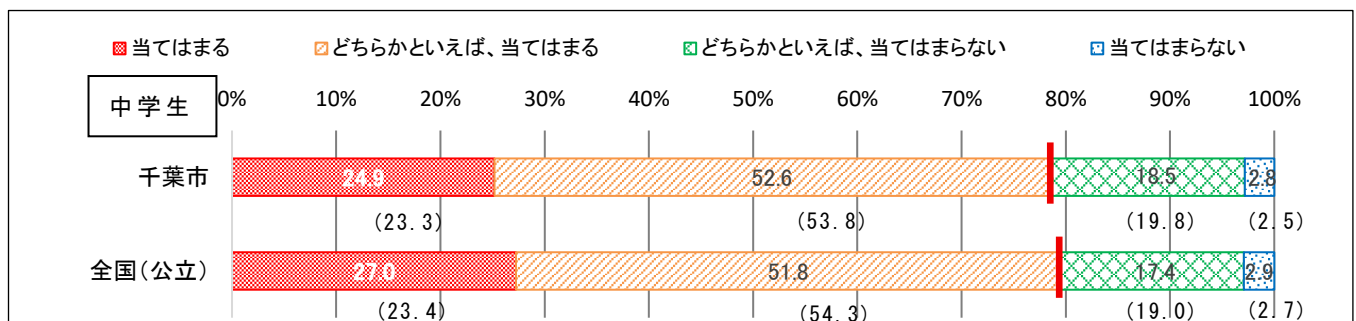
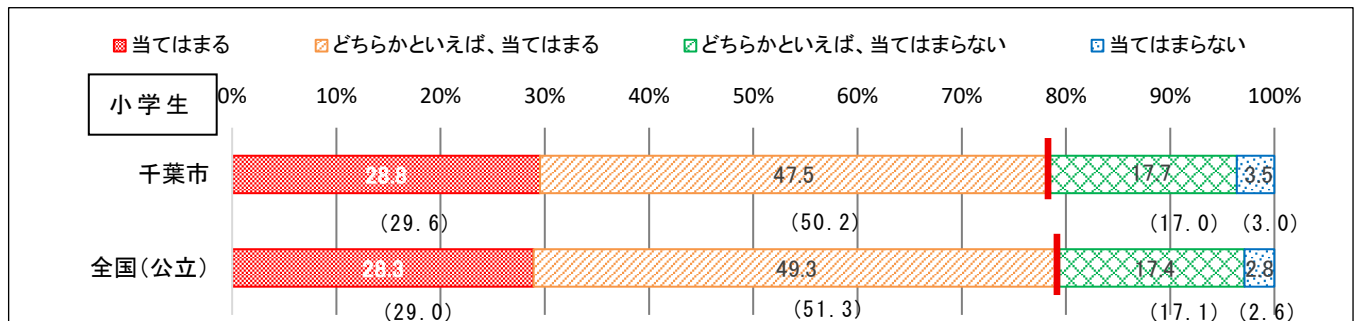
○項目7(4)「プレゼンテーションを作成することへの自信」が小・中学校共に全国平均を上回っていると共に、中学では、肯定的回答の割合が増えており(R7 81.3%→R8 82.2%)、日頃の学習成果が反映されているといえる。その他でも、ICT 機器を活用する自信に関する質問では全国平均と比べてほぼ同水準の項目が多く、本市児童生徒の意識に改善傾向が見られる。

〔主体的・対話的で深い学び（個別最適な学びと協働的な学び）に関する意識〕

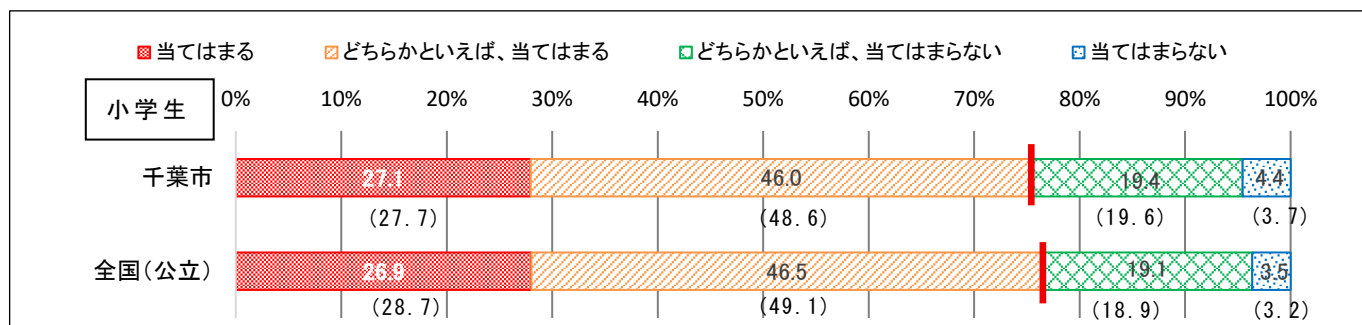
8 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



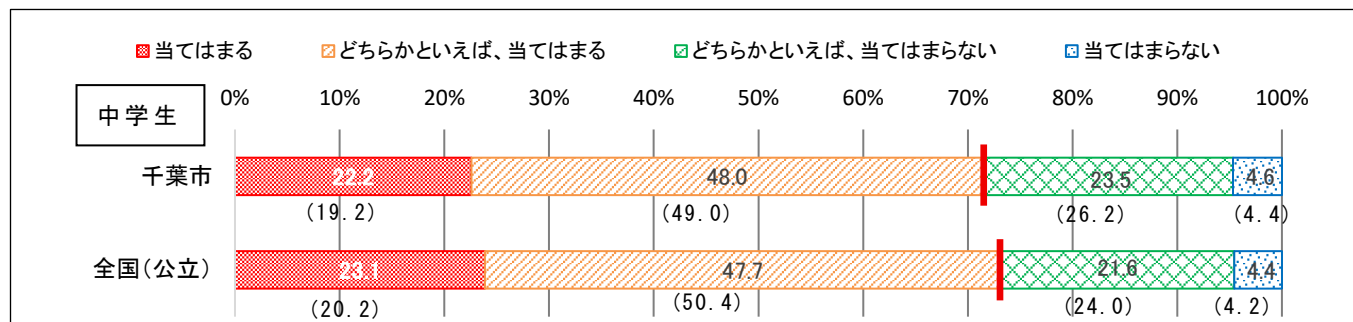
9 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



10 5年生（1、2年生のとき）までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かし
ながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

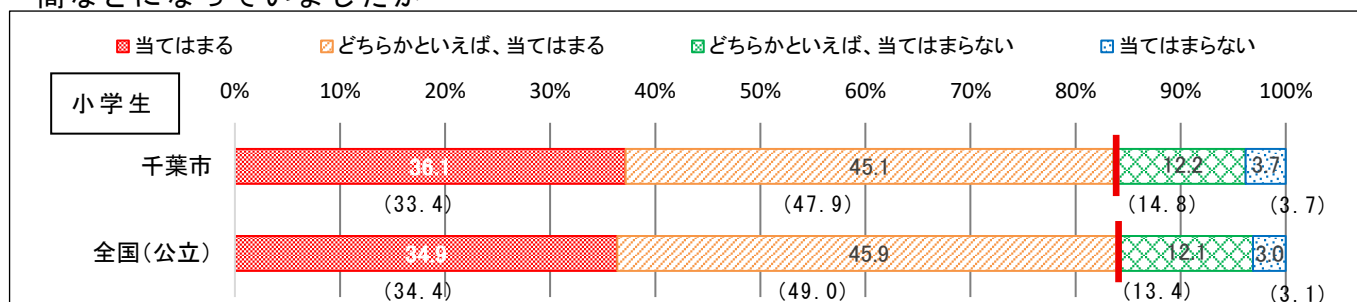


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→73.1%（全国より0.3ポイント低い）

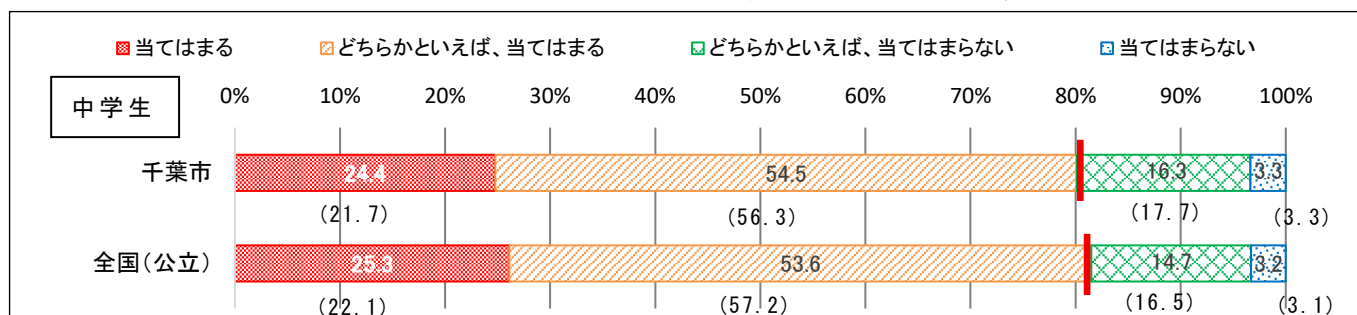


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→70.2%（全国より0.6ポイント低い）

11 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



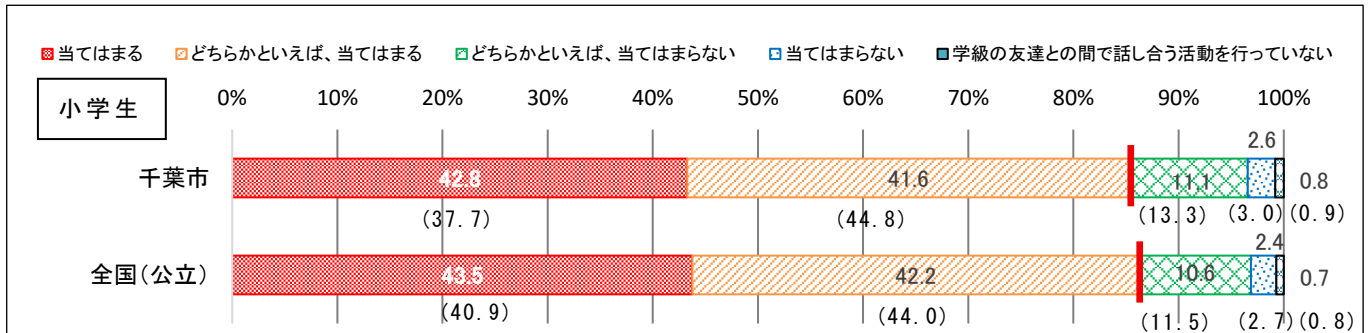
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→81.2%（全国より0.4ポイント高い）



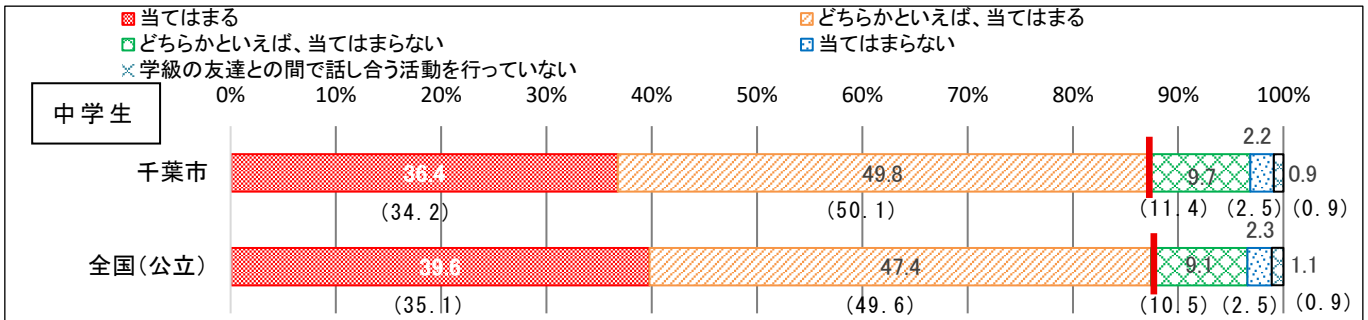
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→78.9%（全国と同ポイント）

1 2 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

* 令和7年度は「広げたりする」

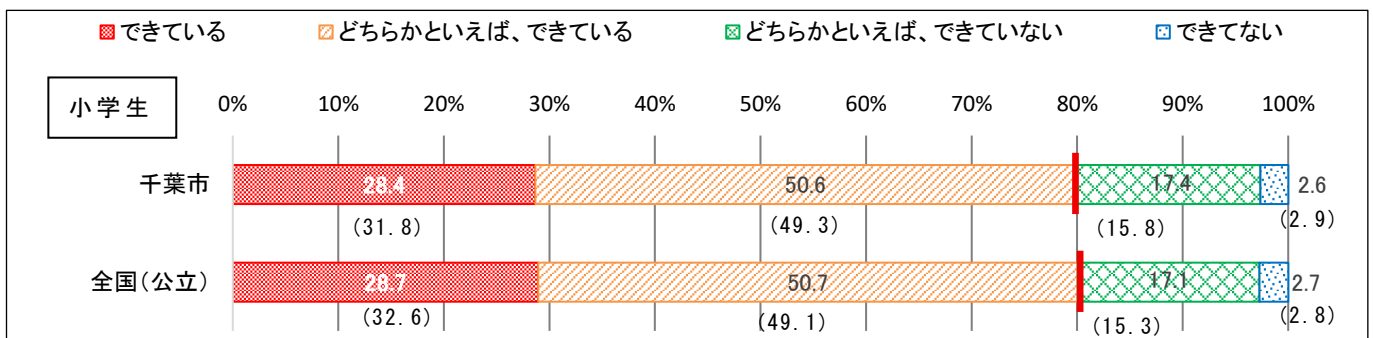


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.4%（全国より1.3ポイント低い）

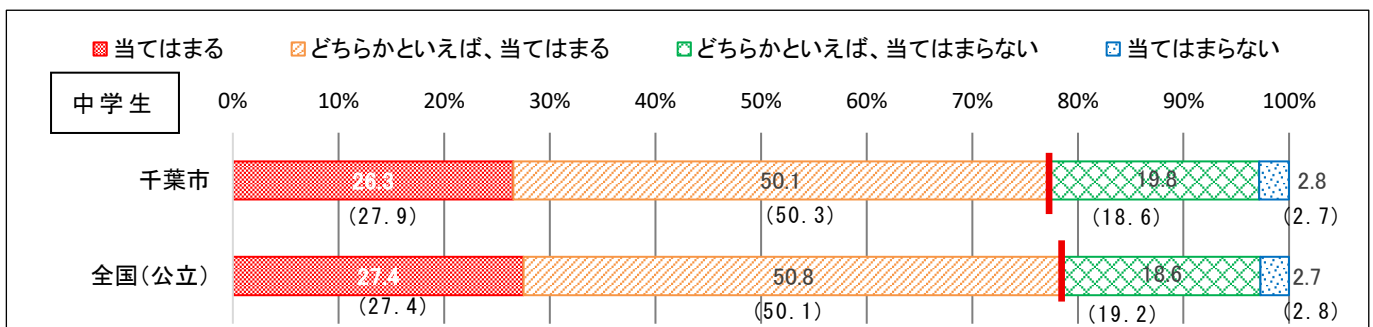


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.2%（全国より0.8ポイント低い）

1 3 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

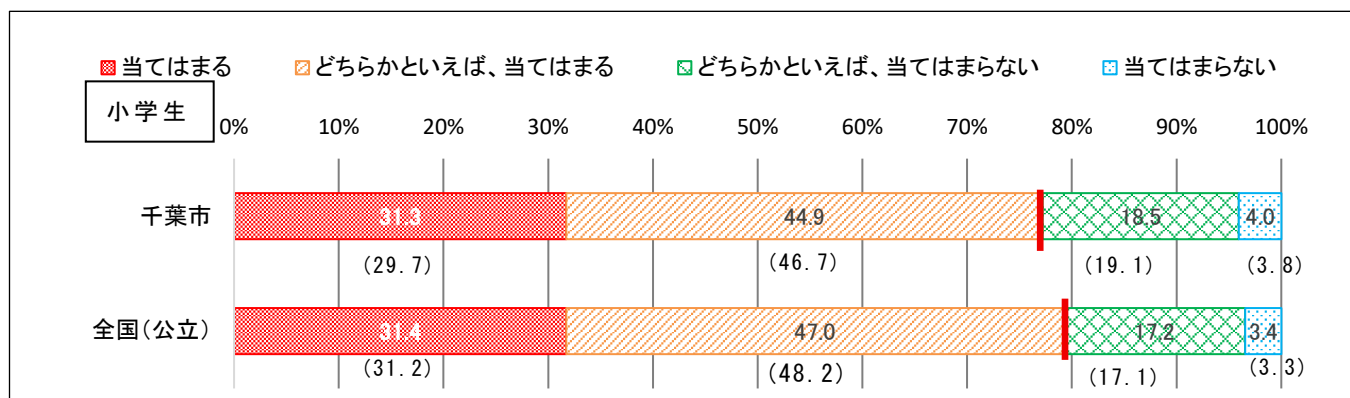


・ できている、どちらかといえばできている→79%（全国より0.4ポイント低い）

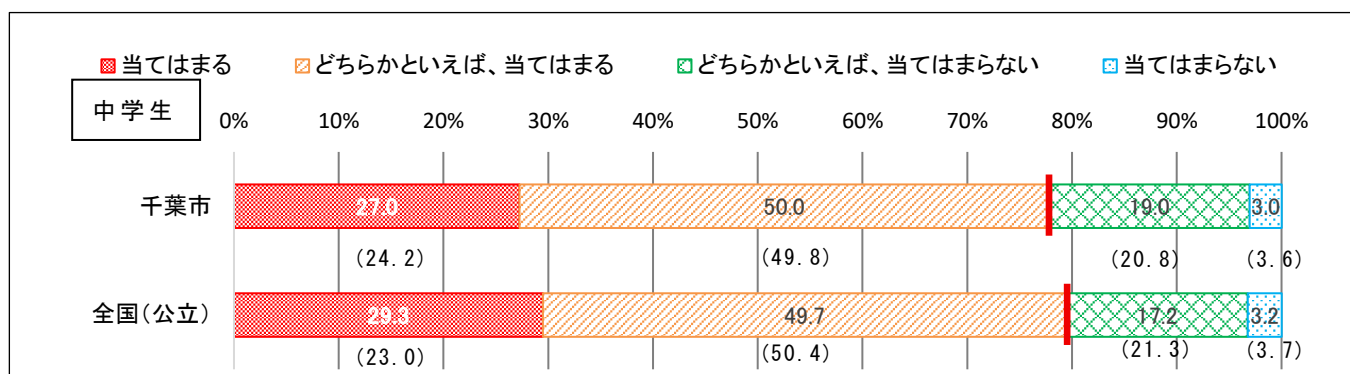


・ できている、どちらかといえばできている→76.4%（全国より1.8ポイント低い）

14 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

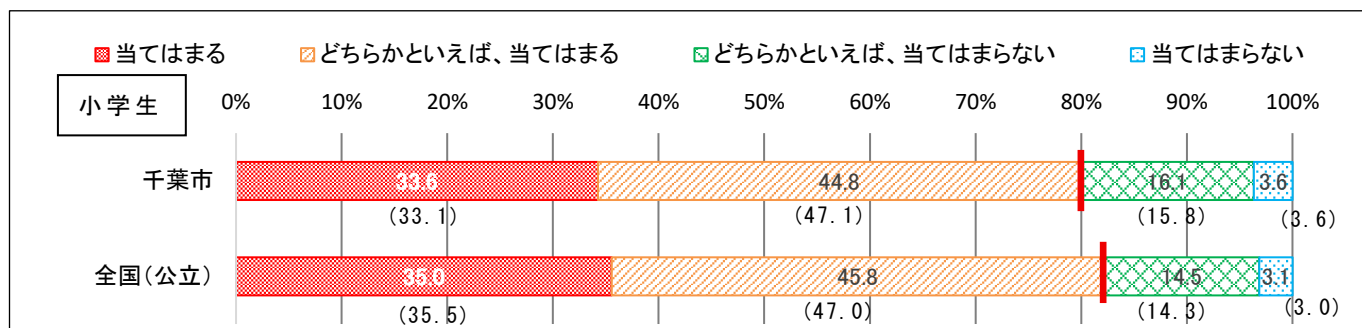


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.2%（全国より2.2ポイント低い）

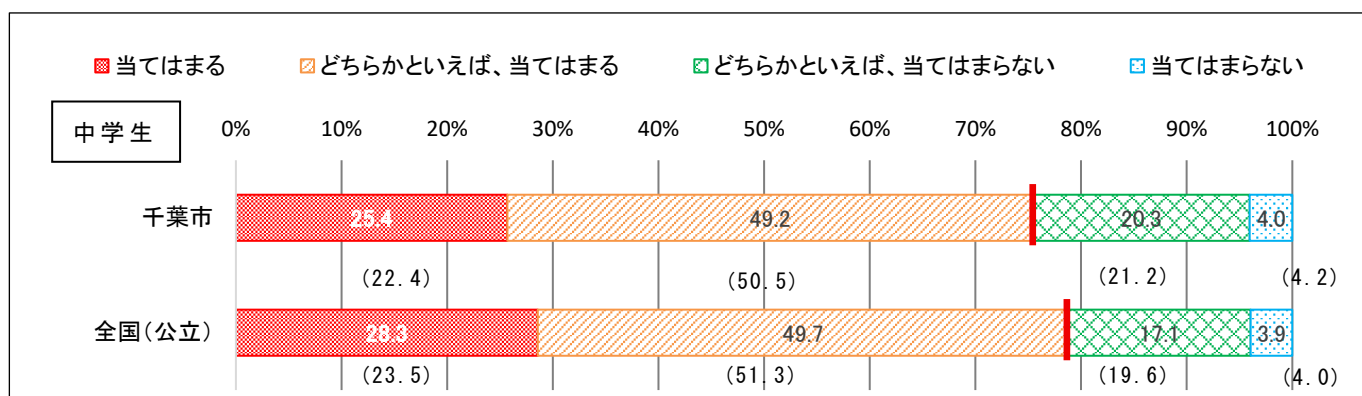


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→77.0%（全国より2.0ポイント低い）

15 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか

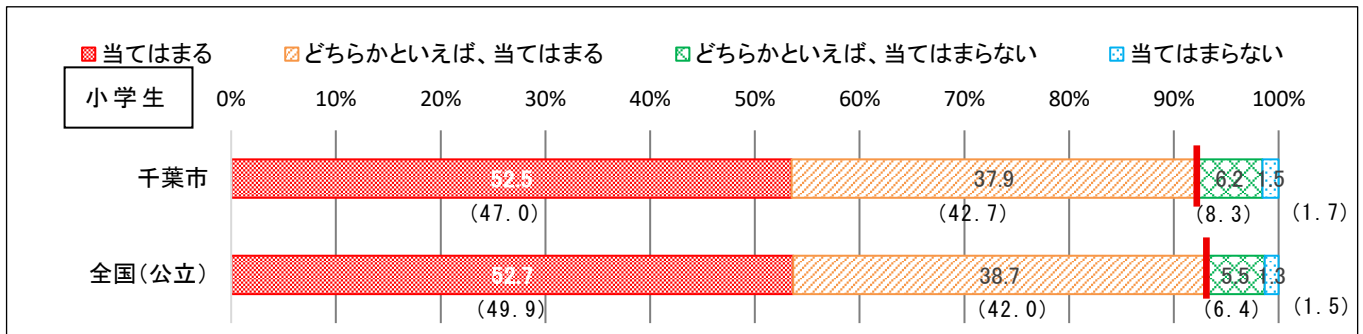


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→78.4%（全国より2.4ポイント低い）

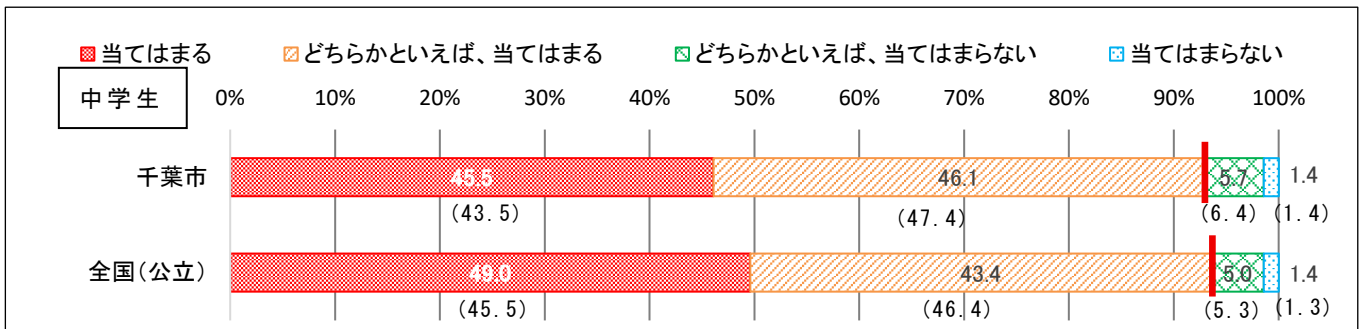


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→74.6%（全国より3.4ポイント低い）

16 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.4%（全国より 1.0 ポイント低い）



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.6%（全国より 0.8 ポイント低い）

○項目8 「自分の考えを発表する工夫」が小学校においては全国平均を上回っており、資料や文章、話の組み立てなどを工夫することへの意識が高いことが伺える。

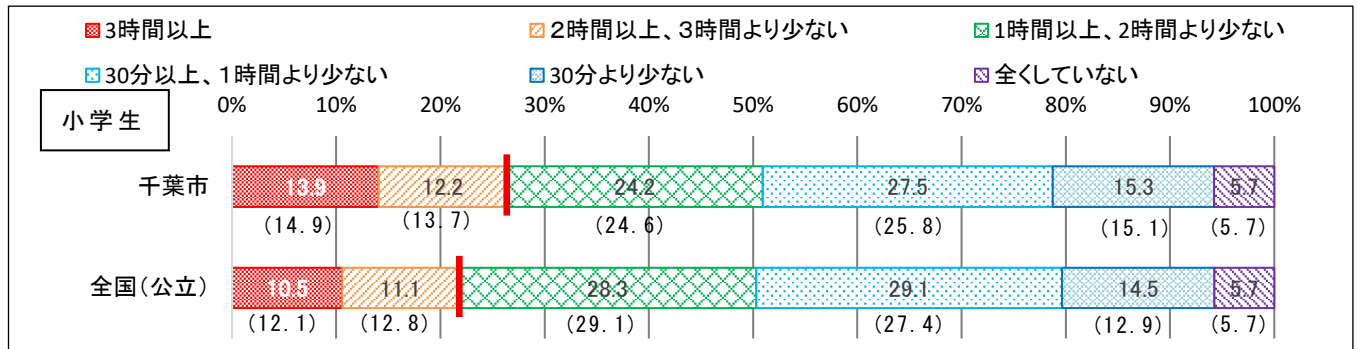
○項目11「授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっているか」については、小中ともに全国同等以上となっており、授業に対して一定の満足度を示しているのが分かる。また、自己の学びを客観視するという意味で、自己調整力が育ってきていることが読み取れる。

○項目16「友達や周りの考えを大切に、協力して課題解決に取り組んでいるか」については、全国比では小中共に低いものの、昨年度の全国比較（小学生…全国より 2.2 ポイント低い 中学生…全国より 1.0 ポイント低い）より向上が見られており、協働的な学びを行う上での意識が高まってきていることが伺える。

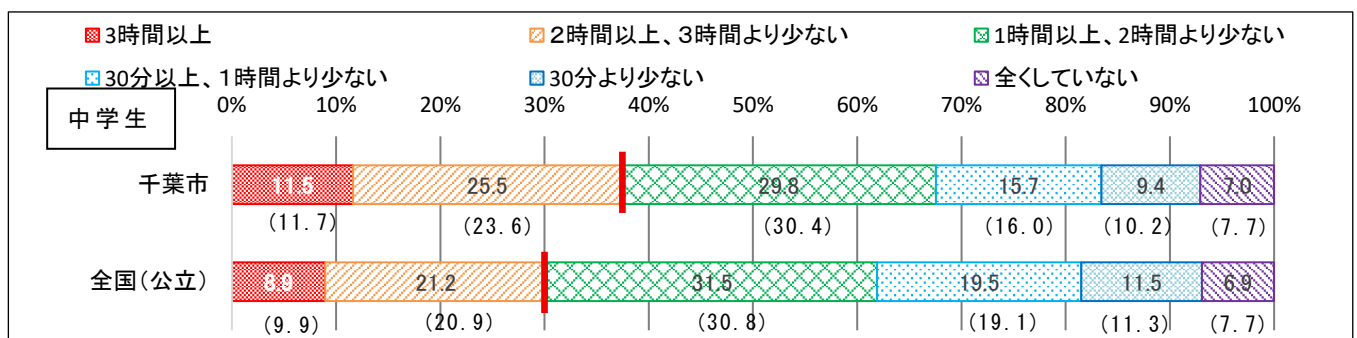
ただし、学習した内容を見直し次の学習につなげることや、学んだことを実生活と結び付けて考えたり生かしたりすることなどには課題が見られるので、千葉市学校教育の課題に挙げられている「探究的な学習や体験・交流活動で学び合う学習の充実」により、主体的・対話的で深い学びの一層の充実が求められる。

〔家庭での学習に関する意識〕

17 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

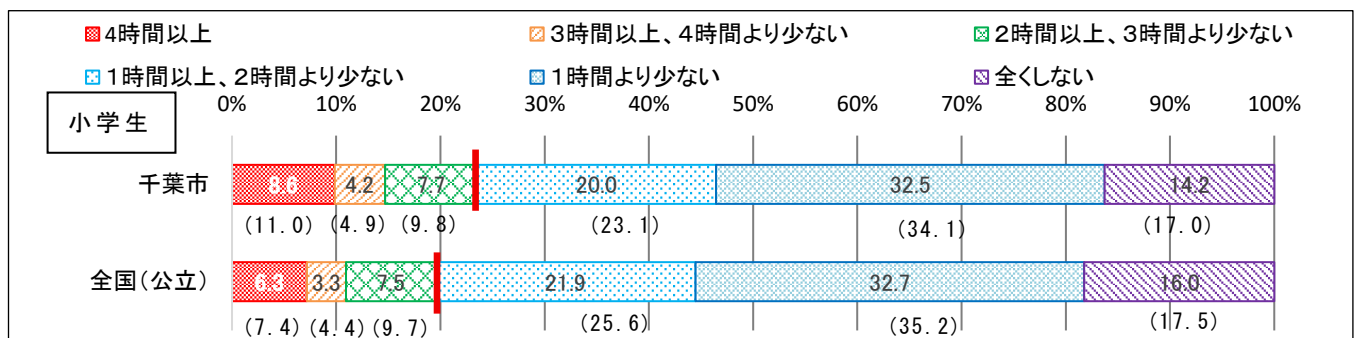


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→26.1%（全国より4.5ポイント高い）
- ・ 30分より少ない、全くしない→21.0%（全国より0.8ポイント高い）

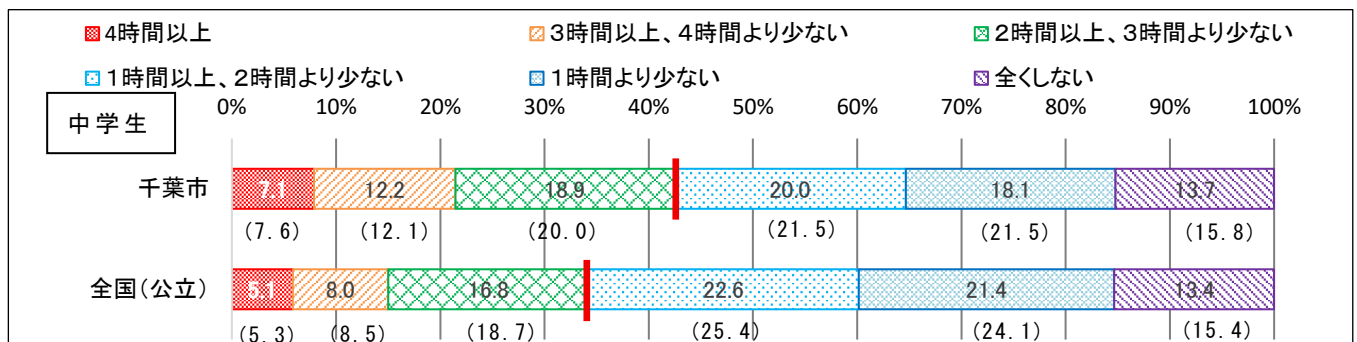


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→37.0%（全国より6.9ポイント高い）
- ・ 30分より少ない、全くしない→16.4%（全国より2.0ポイント低い）

18 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



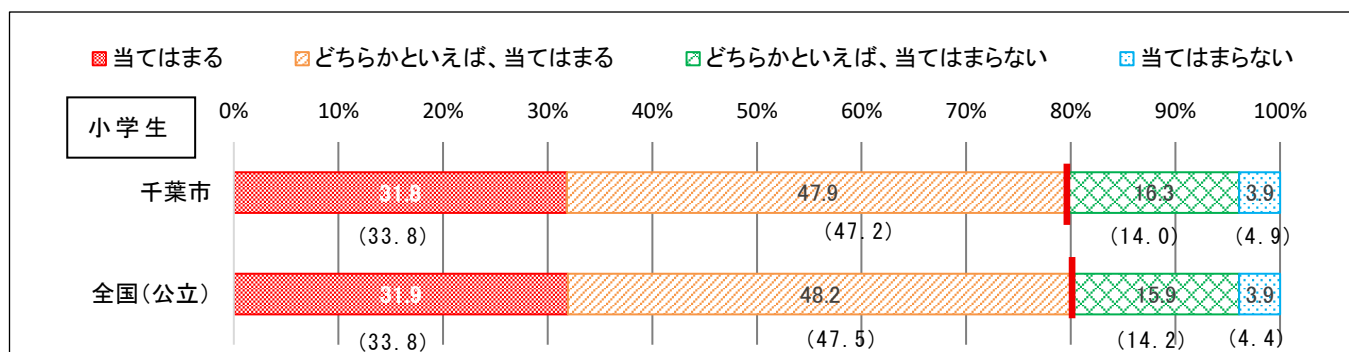
- ・ 1日2時間以上勉強をしている→20.5%（全国より3.4ポイント高い）
- ・ 全くしない→14.2%（全国より1.8ポイント低い）



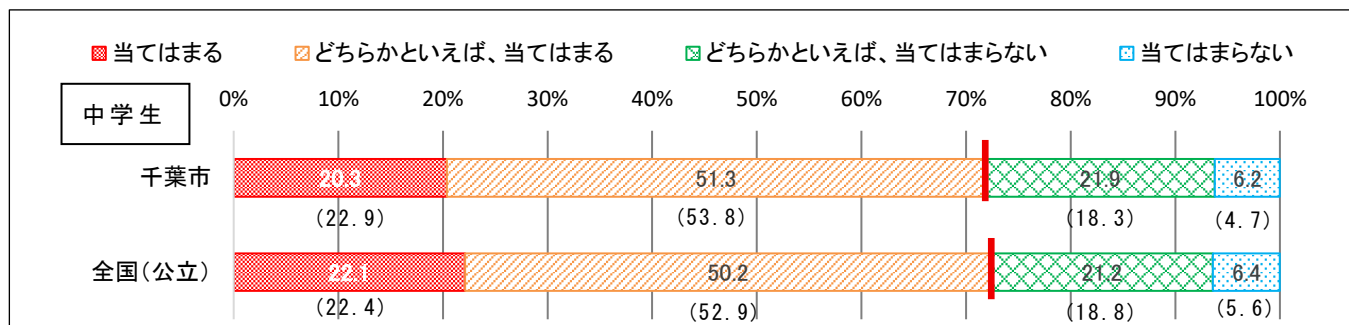
- ・ 1日2時間以上勉強をしている→38.2%（全国より8.3ポイント高い）
- ・ 全くしない→13.7%（全国より0.3ポイント高い）

〔地域・社会との関わりに関する意識〕

19 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる → 79.7% (全国より 0.4 ポイント低い)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる → 71.6% (全国より 0.7 ポイント低い)

4 今後の取組

(1) 児童生徒の確かな学力の育成を図るため、**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**を推進する。そのために以下のような取組を行う。

①全国学力・学習状況調査及び千葉県学力状況調査の結果を分析し、各校の児童生徒の良い点や伸ばしたい点を整理するとともに、学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けて

「学力向上アクションプラン」の見直しを行う。その際、

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組めるような活動
- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげる活動
- ・学んだことを、実生活と結び付けて考えたり生かしたりする活動

を大切にすること。

②全国学力・学習状況調査の調査結果の分析と、それを踏まえた学習指導の改善・充実に向けたポイントを示したリーフレット**「結果概要と授業改善のすすめ」**や、課題となった調査問題ごとに誤答例や授業改善のポイントを収録した解説動画**「学力向上への取組」**を各学校に配付する。それらをもとに、日々の授業の改善を図り、課題となっていた資質・能力の育成を目指す。

- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること（国語）
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること（国語）
- ・立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること（算数）
- ・事柄・事実、方法・手順や理由を説明すること（数学）
- ・事実や考え、気持ちを整理し、目的や相手に応じてまとまりのある文章を書くこと（英語）

③全国学力・学習状況調査の**調査結果において顕著な向上が見られた学校の具体的な取組**について、全市に展開する。

④ICTを活用した個別最適な学びや家庭学習におけるギガタブ活用の充実を図るなど、**ICTの効果的かつ主体的な活用について一層推進**していく。特に、児童生徒が課題解決に向けて、必要に応じてICTを自ら選択・活用できるように学校訪問等で指導・助言する。また、本市児童生徒の肯定的回答割合が高かったICTを活用したプレゼンテーション作成と結び付けること、ドリルパークなど取り組みやすい家庭学習を促進すること、テストパークを活用して自分の学力の傾向や課題を把握することなどを通して、深い学びと1人1台端末の活用機会の一層の充実を図る。

(2) **教育委員会のホームページや各学校が作成するプリント「家庭学習のすすめ」**等を通して、全国学力・学習状況調査の結果概要と分析を踏まえ、授業における取組の様子や、ICT機器を活用した学習の効果、家庭学習の大切さ等について、広く保護者に発信する。

(3) 自己肯定感を高める指導方法や将来の生き方について考え、夢や目標を持つことができる**キャリア教育**を推進する。

①**千葉県キャリア教育の基本方針「未来を拓くキャリア教育」**を踏まえた「キャリア教育ブランドデザイン」とキャリア・パスポートの活用を通じた指導の充実を図る。

②企業や各種団体、地域、家庭と連携を図りながら、**職業体験学習**（職場体験や出前授業等）の充実を図る。

千葉市科学フェスタ2026の実施について

生涯学習部 生涯学習振興課

- 1 日 時：令和8年10月10日（土）・11日（日）10：00～16：00
- 2 会 場：きぼーる1階～2階、7～10階、15階（中央4－5－1）
- 3 入場者数 13,474人

10日（土） 1日目

5,401人

11日（日） 2日目

8,073人

（対前年比 5,417人減）

4 主な内容

【7階 科学館 企画展示室】

- ・開幕式（10日 9：50～）
市長開幕宣言
- ・市総合展覧会「教育長賞」「科学館賞」表彰式
（参加 受賞者15人 保護者・見学者・来賓など113人 合計128人）
- ※「科学館賞」発表会は7階で実施



写真3 「科学館賞」発表会の様子



写真2 開幕式 表彰式の様子

・主なイベント

ア) スペシャルステージ【当日参加制】

【7階 科学館 企画展示室】（参加者数854人）

- ・バラシンピック in 千葉市科学フェスタ
- ・回るものは、なぜ強い？桑子先生の回転科学ショー
- ・たおれない!!ロボットのひみつ！

～倒立二輪ロボットのトークショー&操縦体験～

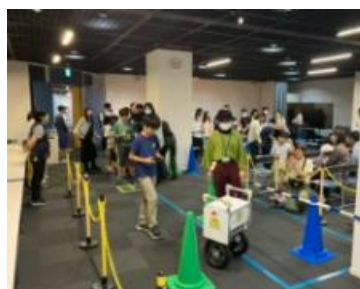


写真4 ステージイベントの様子
科学館企画展示室での開催に変更になった。観覧者参加型のステージ内容で、出演者と観覧者の距離も近くなり盛り上がりを見せた。

イ) 科学体験ブース【当日参加制】

＜参加団体＞31ブース（団体）

【1階きぼーる広場、2階アトリウム、15階ボランティア活動室（11日のみ）】（入場者数4,526人）

【当日参加制 各ブースの材料がなくなり次第終了】

主な団体名	出展内容
千葉市立打瀬中学校科学部	CD-R 分光器を作ろう
千葉市立稲毛高等学校・稲毛国際中等教育学校自然科学部	ウミホタルショー自然科学部と一緒に観察しよう
NPO 法人田淵チバニアンズガイド部	チバニアンの秘密～チバニアンを知ろう～
NPO 法人サクラテンペスタ	ロボット工作体験教室

初出展団体は3団体
（31ブース中）
出展団体募集期間は
4/15～5/31
・チバニアンズ
・おもくろや
・第一薬品産業株式
会社



写真5 科学体験ブースの様子
市内中学・高校科学部（3校）や、県内中学・高校科学部（2校）からの出展があった。
1階きぼーる広場、2階アトリウム、15階ボランティア活動室の3会場にて実施した。

ウ) 11日のみ「千葉オンリーワン企業と身近な科学」＜参加企業＞4社

【10階 科学館 スカイガーデン】（入場者数486人）【事前申込制、展示のみ当日自由観覧】

各企業4,5回の
ワークショップを
実施。
当日の自由観覧の
入場者もあり盛況
であった。

会社名	内容
株式会社協同工芸社	看板デザイン技術を学ぶモノづくり！
アイコミュニケーションズ株式会社	「つくる、ためる、おくる」～電気ってなに？！～
WellMent 株式会社	AIで発見！未来の自分と新しい可能性
株式会社ウィード	Glove Quest 親子で協力!!コーディング手袋を使ってミッションに調整し、伝説の手袋をGETしよう！



写真6 オンリーワン企業会場の様子
出展4社とも、特色あるワークショップ・展示を展開。多くの参加者が千葉市の企業の魅力を知る機会となった。



写真7 実験・工作教室の様子

エ) 実験・工作教室 ＜参加団体＞全8団体

【8～10階 科学館各所】（参加者数266人）【事前申込制】

主な団体名	内容
東京都虹の下水道館	入門！下水道場！～たのしくまなぶ下水道～
量子科学技術研究開発機構	ちょっと特別な宝石と言えば「あれ」の模型を作ろう
蔵前理科教室ふしぎ不思議	エナメル線でモータを作り電・磁・力を学ぶ
慶応技術士会	マリOTT瓶で水の滴下速度を変えるポンプを作ろう

議案第 4 4 号

令和 8 年度末及び令和 9 年度千葉市立学校教職員人事異動方針について

令和 8 年度末及び令和 9 年度千葉市立学校教職員人事異動方針について、次のとおり定めるものとする。

令和 8 年 1 0 月 2 1 日提出

千葉市教育委員会教育長 鶴 岡 克 彦

令和 8 年度末及び令和 9 年度千葉市立学校教職員人事異動方針

千葉市教育委員会

令和 8 年度末及び令和 9 年度における千葉市立学校教職員の人事異動は、本市教育の一層の振興を図るため、各学校が校内組織を活性化し、今日的な教育課題に積極的に取り組むとともに、市民に信頼される学校づくりや特色ある学校づくりの推進に資するよう、次の方針によって行う。

※教職員：学校に勤務する正規職員から技能労務職員を除いた者

第 1 一般方針

- 1 心身ともに優れた人材の確保、教職員の資質の向上を図るとともに、教育効果を高め、調和的な学校運営が行われるように適材適所の人事を推進し、教職員構成の適正化に努める。
- 2 学校間の教職員の過不足を調整し、学校種別の特性に即応する教育体制を強化するため、全市的な視野に立って広域にわたる計画的な人事を積極的に推進する。
- 3 学校運営の充実・刷新を図るため、管理と指導に優れた適任者の管理職への登用及び配置に努める。
- 4 障害のある教職員については、十分に配慮した人事配置に努める。
- 5 千葉県内市町村及び県立学校との交流については、千葉県教育委員会と協議のもと実施する。

第 2 実施要項

- 1 適正配置について
 - (1) 本市教育の課題解決をめざす立場から、意欲溢れた適任者の配置に努める。
 - (2) 教科指導及び生徒指導の一層の充実を期するため、小・中・中等教育学校間、小・中・中等教育学校と特別支援学校間の積極的な配置換えを行う。特に、小学校での教科指導や生徒指導の充実を図るため、中・中等教育学校教員の小学校への計画交流をより積極的に行う。
 - (3) 特別支援教育の振興を図るため、意欲溢れた適任者の配置に努める。
 - (4) 稲毛国際中等教育学校の教育の振興を図るため、意欲溢れた適任者の配置に努める。
 - (5) 真砂中学校かがやき分校の教育の振興を図るため、意欲溢れた適任者の配置に努める。
 - (6) 次の者については、強力に配置換えを行う。
 - ア 同一の学校又は同一の区分に永年勤続する者
 - イ 学校の配当定数、教科担当者数の調整上必要のある者
 - ウ 勤務実績を検討し、配置換えを必要とする者

- (7) 市立高等学校については、県教育委員会の「公立高等学校職員人事異動実施細目」に準じ、適正配置に努める。
- (8) 教職員としての適格性に乏しく、勤務実績の上がらない者等勤務に支障のある者については、降任又は退職を積極的に求める。
- (9) 学校組織の一層の充実を図り、円滑な運営に資するため、主幹教諭を配置する。
- (10) 指導が不適切である教員については、「教育公務員特例法第 25 条の規定に基づく指導が不適切である教諭等の認定の手続き等に関する規則」に定めるところにより、積極的に対応する。

2 広域人事について

- (1) 小・中・中等教育・特別支援学校における教職員構成の不均衡を是正し、人材の育成を図るため、県内市町村立学校及び県立特別支援学校と、他の人事異動及び新規採用に優先して計画的に人事交流を行う。
- (2) 市立高等学校については、年齢構成上の不均衡及び同一校勤務の長期化等を是正し、教職員構成の適正化を図るため、千葉市立高等学校以外との人事交流を推進する。また、中・中等教育学校と高等学校との連携についても配慮する。

3 管理職への登用等について

- (1) 管理職の登用にあたっては、責任感と管理能力、識見、勤務実績等をより一層重視し、全市的な視野に立って適任者の登用に努める。
- (2) 教頭の登用（選考）は、原則として相異なる地域（A・B・C）の学校に勤務した経験を有することを要件とする。
- (3) 原則として、同一校昇任は行わない。
- (4) 定年の段階的な引上げ期を踏まえ、若手の登用に努める。
- (5) 管理職の希望による降任を認める。

4 主幹教諭への登用等について

- (1) 教員としての経験、識見、勤務実績等を踏まえて、全市的視野に立って適任者の登用に努める。
- (2) 主幹教諭の希望による降任を認める。

5 新規採用職員の配置について

- (1) 児童生徒数の変動等を見通しながら、教職員採用の調整を行う。
- (2) 新規採用教職員の配置は、学校間の均衡を考慮して、全市的な視野に立って計画的に行う。

6 暫定再任用教職員について

- (1) 「千葉市職員の定年等に関する条例」の定めるところにより、意欲と能力のある人材を暫定再任用する。
- (2) 配置については、学校及び地域の実情等を踏まえて、計画的に行う。

〜〜

議 案 説 明

令和８年度末及び令和９年度千葉市立学校教職員人事異動方針を定めることについて、千葉市教育委員会組織規則第８条第４号の規定により議決を求めるものであります。

報告第 1 号

千葉市立学校授業料等徴収条例の一部改正について

千葉市立学校授業料等徴収条例の一部改正について次のとおり臨時代理により処理したので報告する。

令和 8 年 1 0 月 2 1 日提出

千葉市教育委員会教育長 鶴 岡 克 彦

千葉市条例第 4 1 号

千葉市立学校授業料等徴収条例の一部を改正する条例

千葉市立学校授業料等徴収条例（昭和 3 4 年千葉市条例第 2 3 号）の一部を次のように改正する。

令和 8 年 1 0 月 9 日

千葉市長 神 谷 俊 一

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に下線で示すように改正する。

改正前	改正後
(趣旨) 第 1 条 この条例は、千葉市立高等学校及び千葉市立中等教育学校の後期課程（以下「市立高等学校等」という。）の授業料、入学料及び進級料の徴収に関し必要な事項を定めるものとする。 (授業料等の額) 第 2 条 市立高等学校等の<u>授業料、入学料及び進級料（以下この条において「授業料等」という。）</u>の額は、次のとおりとする。 [略] (<u>授業料</u> の減免) 第 5 条 校長は、必要と認めるときは教育委員会の承認を得て、<u>授業料</u> の全部又は一部を免除することができる。 (既納の授業料等の不還付) 第 6 条 既納の<u>授業料、入学料及び進級料</u>は還付しない。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。	(趣旨) 第 1 条 この条例は、千葉市立高等学校及び千葉市立中等教育学校の後期課程（以下「市立高等学校等」という。）の授業料、入学料及び進級料<u>（以下「授業料等」という。）</u>の徴収に関し必要な事項を定めるものとする。 (授業料等の額) 第 2 条 市立高等学校等の<u>授業料等</u>の額は、次のとおりとする。 [略] (<u>授業料等</u> の減免) 第 5 条 校長は、必要と認めるときは教育委員会の承認を得て、<u>授業料等</u>の全部又は一部を免除することができる。 (既納の授業料等の不還付) 第 6 条 既納の<u>授業料等</u>は還付しない。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

報 告 説 明

入学料及び進級料を減免することができることとするため、条例の一部を改正するよう市長に申し出ることについて、千葉市教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき臨時代理により処理したので、同条第2項の規定に基づき報告するものであります。

報告第 2 号

千葉市立学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正について
千葉市立学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正について次のとおり臨時代理により処理したので報告する。

令和 8 年 1 0 月 2 1 日提出

千葉市教育委員会教育長 鶴 岡 克 彦

千葉市教育委員会規則第 1 1 号

千葉市立学校授業料等徴収条例施行規則の一部を改正する規則
千葉市立学校授業料等徴収条例施行規則（昭和 5 7 年千葉市教育委員会規則第 1 号）の一部を次のように改正する。

令和 8 年 1 0 月 9 日

千葉市教育委員会教育長 鶴 岡 克 彦

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に下線で示すように改正する。

改 正 前	改 正 後
（減免の対象） 第 2 条 条例第 5 条の規定による授業料の額の全部又は一部の免除（以下「減免」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に<u>行う</u>ものとする。 （1） 生徒の保護者（千葉市立高等学校管理規則（昭和 3 9 年千葉市教育委員会規則第 5 号）第 2 9 条又は千葉市立中等教育学校管理規則（令和 3 年千葉市教育委員会規則第 6 号）第 3 6 条に規定する保護者をいう。）の住家等の建物、家財又は農作物その他生産手段となる物件に災害（申請前 1 年以内に発生したものに限る。）を受けたとき。 （2）～（4） [略] [新設] [新設]	（減免の対象） 第 2 条 条例第 5 条の規定による授業料の額の全部又は一部の免除（以下「減免」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に<u>行うことができる</u>ものとする。 （1） 生徒の保護者（千葉市立高等学校管理規則（昭和 3 9 年千葉市教育委員会規則第 5 号）第 2 9 条又は千葉市立中等教育学校管理規則（令和 3 年千葉市教育委員会規則第 6 号）第 3 6 条に規定する保護者をいう。）の住家等の建物、家財又は農作物その他生産手段となる物件に災害（申請前 1 年以内に発生したものに限る。<u>次項において同じ。</u>）を受けたとき。 （2）～（4） [略] <u>2 条例第 5 条の規定による入学料及び進級料の額の減免は、災害により被害を受けた者に対する支援のためにこれを行う必要があると委員会が認めたときに行うことができる。</u> <u>第 4 条の 2 入学料又は進級料の減免を受けようとする者は、入学料・進級料減免申請書（様式第 1 号の 2）に保護者と連</u>

(減免の決定) 第5条 授業料減免 の決定は、委員会が行う。 2 委員会は、減免を決定したときは、<u>授業料減免決定（却下）通知書（様式第3号）</u>により 校長を経由して保護者に通知する。 (減免の取消し) 第7条 委員会は、授業料の減免を受けている者が、次の各号のいずれかに該当するときは、減免を取り消すものとする。 (1)・(2) [略] (3) 減免を必要としない事由が生じたとき。 2 減免を受けている者が、前項各号に該当すると認められた場合には、校長は遅滞なくその旨を委員会に報告しなければならない。 3 委員会は、減免を取り消したときは、<u>授業料減免取消通知書（様式第5号）</u>により校長を経由して当該保護者に通知するものとする。 [新設]	<u>署のうえ事実を証明する書類その他の委員会が求める書類を添え、校長を経由して委員会に提出しなければならない。</u> 2 <u>校長は、前項の入学料・進級料減免申請書及び書類を受理したときは、速やかにこれらの書類を委員会に送付しなければならない。</u> 3 <u>委員会は、第1項の書類により証明すべき事実を被災者台帳（災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第90条の3第1項に規定する被災者台帳をいう。）によって確認することができるときは、当該書類の添付を省略させることができる。</u> (減免の決定) 第5条 授業料、入学料及び進級料の減免 の決定は、委員会が行う。 2 委員会は、<u>授業料の減免</u>を決定したときは <u>授業料減免決定（却下）通知書（様式第3号）</u>により、<u>入学料又は進級料の減免を決定したときは入学料・進級料減免決定（却下）通知書（様式第3号の2）</u>により、校長を経由して保護者に通知する。 (減免の取消し) 第7条 委員会は、授業料の減免を受けている者が、次の各号のいずれかに該当するときは、減免を取り消すものとする。 (1)・(2) [略] (3) <u>授業料の減免</u>を必要としない事由が生じたとき。 2 <u>授業料の減免</u>を受けている者が、前項各号に該当すると認められた場合には、校長は遅滞なくその旨を委員会に報告しなければならない。 3 委員会は、<u>授業料の減免</u>を取り消したときは、<u>授業料減免取消通知書（様式第5号）</u>により校長を経由して当該保護者に通知するものとする。 <u>第7条の2 委員会は、入学料又は進級料の減免を受けた者が、入学料・進級料減免申請書又は関係書類に虚偽の事項を記載していたときは、減免を取り消すものとする。</u> 2 <u>入学料又は進級料の減免を受けた者が、前項に該当すると認められた場合には</u>
--	---

[新設]

[新設]

、校長は遅滞なくその旨を委員会に報告しなければならない。

3 委員会は、入学料又は進級料の減免を取り消したときは、入学料・進級料減免取消通知書（様式第6号）により校長を経由して当該保護者に通知するものとする。

様式第1号の2

様式第1号の2

入 学 料 ・ 進 級 料 減 免 申 請 書

年 月 日

(あて先)

千 葉 市 教 育 委 員 会

住 所

生 徒 氏 名 (※)

保 護 者 氏 名 (※)

※本人が手書きしない場合は、記名押印してください。

次のとおり入学料を減免くださるよう申請します。
進級料

記

1 減免申請額

2 理 由

様式第3号の2

様式第3号の2

第 号

入 学 料 ・ 進 級 料 減 免 決 定 通 知 書
却 下

様

年 月 日付け申請のあった入学料の減免については、次のとおり決定したの
進級料
で通知します。

年 月 日

千葉市教育委員会

記

1 減 免 の 額

2 却下の理由

[新設]

様式第 6 号

様式第 6 号

第 号

入 学 料 ・ 進 級 料 減 免 取 消 通 知 書

様

年 月 日付け第 号により許可した入学料の減免については、下記のとおり減免を取消したので通知する。

年 月 日

千葉市教育委員会

記

1 取消しの理由

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

~~~~~

## 報 告 説 明

千葉市立学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正について、千葉市教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき臨時代理により処理したので、同条第2項の規定に基づき報告するものであります。

令和8年教育委員会会議第10回定例会 座席表（教育委員会室）

